

NACCSプログラム変更要望一覧（平成31年度分）

No.	業務区分	業務内容	業務コード	変更等事項	使用頻度	現行内容	変更等要望内容	効果
H31-001	海上貨物	バンニング情報登録	VAN	業務コード：VAN 現行：コンテナ1本に対して、貨物管理番号が100件まで登録可。101件以上は登録不可となる。 変更：コンテナ1本に対して、貨物管理番号を1,000件まで登録可に変更。 1000件を要望する根拠。昨年一年間の実績を調べたところ、最大1,000件近い実績が1度あり、この最大件数も対応出来る様に、する為。	弊社は通関業ですが、大阪の保税倉庫で週に1回、舞鶴港の保税倉庫で週に1回。 現行、週2回の頻度です。 しかしながら競合他社でも同じ事案が発生（大阪・南港のみで）しているため、更に頻度は倍以上となります。 また弊社では、今後は取扱い件数を増やし、違う日の本船の船積みを行なう事を検討しています。 出来れば、この問題が解決してから扱い件数を更に増やして行く予定です。	VANが行えないので、件数が100件を超えるとNACCSにデータが残せない。結果マニュアル対応となるが、その為に余計な仕事が増えている。 件数が多い理由：弊社は韓国向けにDOOR TO DOORのサービスを海上輸送に使っています。昨年までは通関をマニュアル申告で行っていた為に問題なかったのですが、税関の一方的な決定で今年1月からこれが出来なくなりました。 従って全てNACCSで1件1件申告しなければならなくなりました。（これだけでも大変な手間が増えています。） 申告件数は制限がありませんが、VAN登録に制限がある事が判り問題になりました。	件数の増加だけです。出来れば早急に対応して頂けると大変有り難く、業務の大きな手助けになります。	NACCSで対処出来ないないので、無理やりデータを削除したり、ダミーの情報をECRで登録したり、本来不必要な処理を行い、無理やり処理しているのが現状。 NACCSで出来ないマニュアル書類で対応しないといけないので、無駄な書類作成、書類管理が発生しているだけでなく、電子化の時代に逆行してしまっている。 これらが改善されます。
H31-002	海上貨物	時間外貨物積卸届	OVS	OVS（時間外貨物積卸届）届出制限件数増加	約2～3回/年	連休前（年末年始・GW・SW等）にOVS（時間外貨物積卸届）を連休明けまで届出をする際に、対象船舶が多すぎるために届出制限件数（30件）に引っかかり、全対象船舶分の届出をすることができない。	現在の届出制限件数を30件から50件に引き上げてもらいたい。	全対象船舶を一度に届出することが可能になり、届出漏れを防ぐことができる。
H31-003	海上貨物	S/I情報登録	VGM	VGM 情報入力欄の追加	毎船・各コンテナに対して使用	日本においてVGM情報がEIRをベーズに船会社がターミナル経由でCODECOを通してEDIとして入手、またはCODECOが整備されていないターミナルからはEIRコピーやサマリーシートを入手し、マニュアル入力している。また、CY CUT日の搬入が多くCY CUT前にVGM情報が入手困難。	VGM情報がNACCSを通しS/Iが船会社に提供されるタイミングで入ること、情報提供者がお客様であること、VGM要求事項が確実に伝達されることを目指したい。	
H31-004	海上貨物	ACL情報登録	ACL01	マーク欄、品名欄の改行を有効にする	全てのACL01	現在、お客様がマーク欄、品名欄で改行を行っても、EDIFACTで受信した際はその改行が自社システムに反映されない状況です。 その為、お客様にスペースを入力してもらうか、自社システム側で手直しが必要となっております。	上記改行がEDIFACT上でも反映される様、システムの変更をお願い致します。	
H31-005	海上貨物	ACL情報登録	ACL01	ACL 品名欄が品名2以上に書き込まれるとEDI fileが2つに分割される。これを分割しない様にしたい	全てのACL01	現在、EDIが分割されると弊社側で取り込み、照合作業に追加の教務負担が発生している。	EDI dataが分割されないように変更をお願い致します。	

No.	業務区分	業務内容	業務コード	変更等事項	使用頻度	現行内容	変更等要望内容	効果
H31-006	海上貨物	積荷目録訂正	CMF01/CMF02	CMF (積荷目録情報訂正)	年に数回	MFR時にCY利用者コードが必須になっています。 MFR後に着岸するCYが変更された場合、CY利用者コードを変更する必要があります。 訂正する場合は一度削除してから正しいCY利用者コードを用いて登録。 また削除する場合においてもBL単位で行えない。	本船・航海番号・港・枝番を指定し、該当するBL全てに対してCY利用者コードを一度に変更する仕組みを考えて欲しい。	BL件数が数件であれば削除する事はさほど問題ではないが、数百のBL件数を一件ずつ削除するには時間がかかる。一度にして数時間の効果が見込まれる。
H31-007	海上貨物	ACL情報登録	ACL01	①項番14 担当者名/項番15 担当者電話番号 ②項番65 個数～項番75 容積単位コード (ネット) ③項番101 コンテナ番号～項番115 温度単位コード ④項番76 輸出統計品目・代表番号 ⑤“(アンダーバー)”の入力可能化		①②③④任意項目 ⑤使用禁止文字	①必須項目化 ②③必須項目化若しくは不備は警告 ④6桁必須化 ⑤入力可能化	①入力内容確認の際に即担当者に連絡が取れ、問題解決が早まる ②B/L作成上必須項目につき必須にすることで業務効率化が図れる ④今後HS CODEを義務化する国が増えても即対応が可能 ⑤昨今要求の多いe-mail入力時に利用される記号でもあり、実現することで業務効率化が図れる作成者の連絡先を必須の件ですが、よくある不備は以下取り上げた内容も含め、主に乙仲様が把握している情報に伴う入力不備と考えられる項目です。 ACLの入力項目に間違いを起こしやすい原因があるかどうかは正直不明です。
H31-008	海上貨物	海上貨物情報照会	ICG	ICG		現在業務履歴が10件まで表示される・当該船積みにおいて調査が必要になる場合、10件の業務履歴では知りたい情報が見れない場合があるため。	すべての業務履歴が開覧できるようにしてほしい。	
H31-009	海上貨物	ACL情報登録	ACL01	ACL01	受信 約9,000件/月	(1) 入力者様によると、送信前にプレビューする機能がないと伺っている (2) 受信側として、通常のB/L作成に必要な情報について未入力チェック項目が少ないと感じる	(1) 送信前のプレビュー機能の実装 (2) 通常のB/L作成に必要な情報について未入力チェック項目の増加(補足) 特に弊社が経験している未入力項目として下記が挙げられるため、必須項目としていただきたい。 ・船卸港 ・運賃支払コード(P/C)	入力者様の「うっかり送信」を防ぐことにより、下記の効果が期待できる ・入力者様の再送の手間の削減 ・船社の作業(未入力情報の問合せ、再送依頼)の削減

No.	業務区分	業務内容	業務コード	変更等事項	使用頻度	現行内容	変更等要望内容	効果
H31-010	海上貨物	在来貨物のDMF業務に係る遅延発生解消	DMF（積荷目録提出）	在来貨物に係るDMF業務を行うと処理に時間を要するため、短縮してほしい。	2017.12 業務実施件数：7021	出港前報告制度に係るAMR（出港前報告）業務を実施した場合、同貨物情報を登録するMFR（積荷目録情報登録）業務を行うことなくDMF（積荷目録提出）業務が実施可能となる仕様である（以下、「AMR業務に係るMFR業務の省略可能化」）。 また、在来貨物のように、出港前報告制度にかかわらず、MFR業務を実施した場合、当該MFR業務においてコンテナ詰貨物である旨の情報（以下、「コンテナ番号」）が登録されなければ、DMF業務実施後、船舶コード、船会社コード、船卸港、船卸港枝番の一致する船舶情報で、AMR業務が行われた貨物情報【90日間保存】の実績（以下、「AMR情報」）を見に行く仕様となっている。 つまり、コンテナ貨物の場合は、MFR業務において、コンテナ1本でもコンテナ番号が登録されるため、DMF業務実施後にAMR情報を見に行かないが、在来貨物の場合は、コンテナ番号の登録がないため、必ずAMR情報を見に行く仕様となっている。	船舶情報の条件である船卸港枝番を運用で航海毎に変更する案の他、利用者設定業務（U業務）を新たに新設し、当該機能を必要とする船会社が設定できるようにしてほしい。	
H31-011	海上貨物	REPORTERIDの有効期限		有効期限の延長		1年間	主に海外の代理店等が使用し、年間でわずかしか使用しないが、年1回や隔年1回の船積などの季節性・特殊性があると1年間の前後に発生する。そのために期限切れが発生し都度登録負担があるので、2年間の延長を希望します。	事務負担・経費負担の軽減
H31-012	海上貨物	混載BL番号入力	NVC01	NVC01共通部でのBL番号入力数の現行20件から99件への増加		20BL数の入力だが、20BL以上は最初から入力しなければならない。	現行の20BL数では不足するケースがあるので、1業務で最大99件のBLを入力できるように、繰り返し部（20）を（99）に拡張する。	事務負担軽減
H31-013	海上貨物	混載BL番号入力	NVC02 NVC11	NVC02およびNVC11でBL番号入力数の現行20件から99件への増加		20BL数の入力だが、20BL以上は最初から入力しなければならない。	現行の20BL数では不足するケースがあるので、業務入力欄数（20）を（99）に拡張する。	事務負担軽減
H31-014	海上貨物		ALC01 ALC11	LCL 船積みのD/R作成（ACL 01での仮登録、ACL11で呼び出しの本登録）		CFS-CFSでの船積みD/R作成の際、ACL01で仮登録、本登録の際に繰返部への入力が必要ないにも関わらず、パッケージやGW、M3が合わないとエラーメッセージが出てくる。	ACL01で入力の際、荷受形態を52で選択すれば上記エラーが出ないようにして頂きたい。	エラー原因を探する必要がなくなる。（特に新任でDRを作成する者）
H31-015	海上貨物	搬入確認登録	BIA	在来船の貨物の他所蔵置への搬入業務	都度	在来船の貨物を保税蔵置場へBIA（搬入確認登録）する場合ポートノートで搬入出来るが他所蔵置の場合はTYC（他所蔵置許可申請）の後OLC（保税運送申告）をしなければ（搬入確認登録）が出来ない。	他所蔵置の搬入であっても、ポートノートで搬入できるようにしたい。	現行のOLC（保税運送申告）業務をしていない承認されるまで貨物が動かせない（朝早く入港したり週末に入港した場合に直ぐ未水切りが出来ない）事が解消される。また業務の省力化に繋がる

No.	業務区分	業務内容	業務コード	変更等事項	使用頻度	現行内容	変更等要望内容	効果
H31-016	海上貨物		BIC B0C	業務コード (BIC又はB0C) で保税倉庫における搬出入日の入力を行う際のエラー表示について	毎日使用	業務コード (BIC又はB0C) で保税倉庫における搬出入日の入力を行う際、誤って搬出日を搬入日の前日以前の日付として入力してもエラー表示されない。	上記のような単純な日付入力の間違ひについては、エラー表示されるようにシステムを変更してほしい。	保税台帳のチェックの際に上記誤記入を発見した場合は、マニュアル台帳を作成し保存する業務が発生し業務が煩雑になる。業務の効率化のためにNACCSを導入しているため、極力煩雑な業務は避けたい。
H31-017	海上貨物	CHJ貨物情報仕分け	CHJ	元B/Lよりの仕分け履歴の表示	2～3件/日	仕分け前後のB/L情報のみ表示	仕分け前のB/L情報部分 (1ページ目) にそれまでの仕分け情報を記載する。	税関に提出する書類としてこの1枚を添付で足りるようになる。紙の省略とチェックのしやすさ向上。
H31-018	海上貨物	CHJ貨物情報仕分け	CHJ	1B/L複数コンテナ、コンテナごとの仕分けの場合の入力方法	2～3件/日	仕分け数ごとに品名・数量・重量・コンテナ番号の入力が必要。1B/Lが10コンテナなら10個分入力。画面の切り替え必要。	B/L情報よりコンテナ番号を呼び出し、「コンテナごとの仕分け」増設、1画面上でこのコンテナは「仕分けA」、これは「仕分けB」と選択し、数量などの入力をする。	すでに入っている情報を利用するので効率的。また、全情報がすぐ見えるのでチェックが楽、かつ確度がある。1画面で1度で入力するので速くなる。
H31-019	海上貨物	情報仕分けの枝番	CHJ	情報仕分けが必要、かつ輸入予備申告を行う場合で、搬入後にB/L番号に係る訂正が必要となるようにしてほしい	CHJのみ週に1～2回 (予備申告の併用は訂正が必要のため行わないようにしている)	強制的にB/L番号にA、B等枝番を付して予備申告を行うが、コンテナ搬入後CHJを送信すると枝番C、Dとなり、当初予備申告の訂正が必要となる。	予備申告をB/L番号、枝番A、Bで行なう場合、その後のCHJで枝番C、Dとならないようにしてほしい。	訂正が不要となることで迅速な通関が可能となる
H31-020	海上貨物	輸入通関	ICG	ICG業務への「更新」機能の付与		通関蔵置場所に貨物が搬入済みであることはICG業務を行い、「貨物情報照会情報」画面の「最新更新業務」欄に「PKI」「PKK」や「BIA」が反映されていることで確認を行っている。貨物が搬入されていない場合は、時間を置いて再度ICG業務を行うこととなるが、その際、つねに「貨物情報照会情報」画面の「次貨物管理番号」欄に貨物管理番号を入力しないと業務が行えず、開庁時間外に複数のHDS貨物のCFSへの搬入を待っている際など、都度の入力が手間となっている	「貨物情報照会情報」画面に、ウェブブラウザの「更新」ボタンのような「情報の更新」もしくは「再取得」ボタンを設置し、同一の貨物管理番号の貨物情報の再取得を、都度の貨物管理番号入力を行わずとも実行可能にしていきたい。	業務量の削減
H31-021	海上貨物	貨物情報照会情報	ICG	貨物情報照会情報における申告区分の表示	頻繁に確認	通関業者以外の海貨業者やNVOCは「貨物情報照会情報」画面で申告したことはわかるが、申告区分がわからない。(区分1の場合は許可日が表示されるので把握できる) また自由化申告を行った場合で検査(区分3)になっても検査対応者が表示されない。	「申告を何日した」、「許可が何日に出た」かについてはわかるが 申告後の審査状況がわからない。また 自由化申告を行い区分3になった場合 検査立会いを指定した場合もICG情報では確認できない。ICG(貨物情報照会情報)で審査区分及び検査立会者が確認できるよう要望する。	申告官署の自由化で通関部隊と荷捌部隊が離れた場所で営業することも発生している。申告貨物の状態が通関業者だけでなく荷主や海貨業者、NVOCにおいても情報が直ぐに入手できる
H31-022	海上貨物	RSS01 輸入コンテナ引取り (1D通知)	RSS01	1B/Lで複数コンテナの場合で、コンテナごとに1D通知が必要な場合の入力方法	20件/日	コンテナごとの引き取りで引き取り業者が違うため、それぞれコンテナごとに1D通知が必要な場合、何度もRSS業務を行う必要がある。	B/L情報よりコンテナ番号を呼び出し、「コンテナごとのRSS」増設、1画面上でこれらの情報を入力送信すると複数RSSを一括送信できる。	すでに入っている情報を利用するので効率的。また、全情報がすぐ見えるのでチェックが楽、かつ確度がある。1画面で1度で入力するので速くなる。
H31-023	海上貨物	簡易貨物情報登録 (SCR) のデータ保存期間	SCR	簡易貨物情報登録 (SCR) のデータ保存期間延長	年間200件程度	簡易貨物情報登録 (SCR) はデータ保存期間が土日を含む4日間となっている為、申告するまでにデータが消えてしまう場合がある。	簡易貨物情報登録 (SCR) はデータ保存期間が土日を含む4日間となっているが、輸入申告控えと同様に10日間の保存期間として頂きたい。	簡易貨物情報登録 (SCR) はデータ保存期間を延長する事により、輸入申告控と同様の保存期間とすることで、申告データの消失を防ぐ事が出来、スムーズな申告が可能となる。

No.	業務区分	業務内容	業務コード	変更等事項	使用頻度	現行内容	変更等要望内容	効果
H31-024	海上貨物	SHS業務で出力される帳票のレイアウト	SHS CHS	SHS業務で出力される帳票のレイアウト	月に数十件。	SHS業務で出力される帳票の共通部の余白が多い。	繰返部を、1ページ目から印字していただきたい	無駄がなくなる。
H31-025	海上貨物			通関蔵置場所への貨物搬入済み(BND)であるかの確認機能改善	毎日	通関蔵置場所に貨物搬入済み(BND)であるかの確認が、ICG業務による搬入確認しか出来ない。	<p>【要望】</p> <p>通関蔵置場所に、貨物が搬入されたことをリアルタイムに何かしらの方法で通知してほしい。</p> <p>例) 貨物搬入のお知らせ機能(業務)の追加</p> <p>あらかじめ蔵置場所及びB/L番号等を登録しておく、その蔵置場所に貨物が搬入されたと同時に搬入通知情報が登録した利用者に通知される。</p> <p>【理由】</p> <p>輸入の場合、予備申告(貨物搬入時自動起動)は、入港日等の差異やリマークの確認を行うことなく申告に入ってしまうため、搬入確認後の申告・予備申告(本申告手動起動)を行っているのが現状である。</p> <p>従って、貨物が搬入されるまで再々ICG業務を行わなければならない。</p>	搬入確認後から申告に入るまでの時間短縮が図られる。 ICG業務を行うことにより発生するコストの削減に繋がる。
H31-026	海上貨物		VAN/VAE/VAH/ /CYO	VAN/VAE/VAH/CYO SAT0241の再配信	程毎日	VAN/VAE或いはCYO等で入力された保税コードとは違う保税地域でCYAが行われた際にEXC型ではなくCYAを行った端末にINQ型でSAT0241が配信されてしまう。 CYのシステムでSAT0241を取り込むようにしていても、何らかの事情でCYAが手動で処理された場合には処理された端末に届き取り込みに支障が出る。 それらを監視・制限するとなると周知と徹底の教育やシステム面の対応も含めて手間がかかり、かつそれでも完全な体制を構築する事は困難が予想される。 登録する側が間違えなければ済むが、輸出貨物は積み込み予定本船が変更になる事も多く、徹底は困難でありCYで通関が切れた後は取消も煩雑となり、EXC型での配信は受け取れないままとなるのが現状。	SAT0241に関しては、搬入先として入力された保税コードと違う保税地域でCYAが行われた際には、INQ型がCYAを行った端末に配信されると同時にEXC型もそのタイミングでCYAによって上書きされた貨物情報の搬入先の情報を基に再度配信されるようにして欲しい。	CY側で貨物情報の確認をよりシステム化しやすい。
H31-027	海上貨物	PUR 空コンテナピック アップ登録	PUR	ブッキング情報	50件/月	船社ブッキング情報(コンテナ本数等)に変更があった場合、船社が処理するブッキング登録情報の変更が滞る。その結果PURの処理が完了せず、FAXによるマニュアル処理をすることになる。	新規業務「(仮称)ブッキング情報訂正依頼」業務と「(仮称)ブッキング情報訂正完了通知」業務を追加する。	ブッキング情報訂正とPUR業務が迅速に完了できる。

No.	業務区分	業務内容	業務コード	変更等事項	使用頻度	現行内容	変更等要望内容	効果
H31-028	海上貨物	ACL, VAN	新規	コンテナ情報	50件/月	輸出空コンテナが保税倉庫（或いは荷主物流倉庫）に着床するまで、コンテナ情報（コンテナ番号・シール番号・TARE W/T）が不明。ACL処理が効率良く完了しない。	輸出空コンテナをピックアップした段階で空コンテナヤードがブッキング番号とコンテナ情報をナックスに登録を行い、ブッキング番号をキーとし輸出コンテナ情報（コンテナ番号・シール番号・TARE W/T）を照会可能とする。	輸出コンテナ情報の早期照会が可能となり「ACL登録」業務が迅速になる。
H31-029	海上貨物	VAA11(パンニング情報追加呼出し) VAA(パンニング情報追加)	VAA11 VAA		2回/週 10回/月	1つのコンテナに2件以上の貨物管理番号を登録する場合、先に1件の貨物管理番号でVAE, VAE11登録してからVAA, VAA11にてコンテナ情報追加作業を行っているが、現状コンテナ1本単位でしか追加できないため、コンテナが複数本ある場合、コンテナ本数分の作業が必要となっている。	VAA, VAA11にてVAE, VAE11のようにコンテナが複数本でも一度の業務で複数本入力できるようにして欲しい。具体的には、VAA業務でも10本程度のコンテナ番号を登録できるようにして欲しい。	業務省力化。入力ミスの削減、ミスした箇所の発見が1つの管理番号で探せるため業務効率が向上する。
H31-030	海上貨物		ACL	通信環境			他海貨から送信されたACL情報か、自社から送信したACL情報かを受信時に判別できる様に出力コードを分けてもらいたい。	現行以上に正確なACL業務の改善に繋がる。
H31-031	海上貨物		ACL01 ACL02		50-100件/日		BOOKING NO. を2個以上入力する必要があるので1ACL複数BOOKING可能な業務新設。 ※50回繰り返し入力可能なハウスBOOKING番号ではありません。	業務改善。
H31-032	海上貨物	ACL業務		B/Lアタッチシートの電子ファイル化（再提出）			貨物の記号・番号等のアタッチシートを電子ファイル化して当該業務の添付ファイル化したい。	業務改善。
H31-033	海上貨物		ACL			積載予定船舶のコールサインと船名を同時に入力した状態では送信エラーとなる。ECRIにコールサインを入力すれば、貨物情報をEDBで呼び出すとコールサイン、船名が反映される。	コールサインと船名が入力されている場合でも、送信が可能にいただきたい。入力の際にコールサインが予定船舶と合致しているかを確認のために両方入力を可能として頂きたい。また、コールサインを船名が一致していない場合はエラー処理出来ないか。ECRIは予定船舶名のみで送信が出来て、EDBで貨物情報を呼び出した際に船名とコールサインを反映させることができないか。	IVK業務の作業の省略が可能。コールサインの誤入力の防止。

No.	業務区分	業務内容	業務コード	変更等事項	使用頻度	現行内容	変更等要望内容	効果
H31-034	航空貨物	搭載完了終了報告	CLE	業務内容：搭載完了終了報告 業務コード：CLE	毎日	同一AWB番号に対するCLE登録可能回数が1回のみであり、一度CLE画面で搭載完了終了報告した貨物が再度日本に到着した場合、再度CLE処理をすることができない。 例 HKG-OKA-TPE-NRT-FRA OKAでCLE処理を実施後、NRTでは処理をすることができない。 現行はプリフィックス変更で対応しているが、輸入情報登録（ACH, PKG）業務は二度目以降も行えるため到着時に気づくことが難しく、プリフィックス変更をせず輸入情報登録をしてしまい出発処理の時のエラーで気づく場合もある。その場合はプリフィックス変更前データを削除している。	同一AWB番号に対するCLE登録可能回数制限を撤廃する。	NACCS登録情報変更届による強制搬出の頻度が抑制され、航空会社と税関監視部門の作業効率化を図ることができる。
H31-035	航空貨物	輸入便情報照会（AWB）	IMF11	業務内容：輸入便情報照会（AWB） 業務コード：IMF11	1回以上/便	AWB情報の照会結果が、AWB番号によるソートで表示をしていない。	以前の仕様と同様、AWB情報の照会結果を、以下のソート条件で表示する。 ・AWB番号…昇順によるソート ・仕向地（DST）…昇順によるソート	AWB件数の多い便において、作業の効率化、安全性の向上が可能。
H31-036	航空貨物	輸入便情報照会（HAWB）	IMF12	業務内容：輸入便情報照会（HAWB） 業務コード：IMF12	混載貨物搭載便	検索条件で、照会区分をスペースとした場合、到着便名の入力が必要であるため、MAWBのみを検索条件とすることができない。	検索条件で、照会区分がスペースの場合でも、到着便名を指定せず、MAWB番号のみでHAWBの情報を照会可能とする。	便名の確認をとらずにHAWB情報を照会することで、作業効率向上が見込める。
H31-037	航空貨物	輸入通関	HCH HCH01	HCH・HCH01業務における管轄税関の制限解除について		HCHでは他空港の入力ができるが、応答画面HCH01での税関官署コードに他空港を管轄する税関官署コードを入力するとエラー「R0001入力者の管轄税関と入力された税関官署の管轄税関が異なる。」が出力され、入力者である自身の利用者コードを管轄する税関官署コードしか入力できない。 また、委託元混載業についても入力者と同一税関内の利用者コードしか入力できない。	申告官署の自由化、営業区域制限の廃止に伴い、混載仕分けも税関官署を超えて対応できるようにすべきであり、入力者の利用者コードを管轄する税関以外の官署コードであっても入力可能として欲しい。また、可能であれば未入力の場合は、到着空港を管轄する官署コードを補完して欲しい。 委託元混載業についても、管轄税関の縛りを外して欲しい。	利用者コード管轄外の税関に対し混載仕分け入力を行なうことで、営業所に縛られず会社単位で業務効率を図ることが可能。また、税関に対しても正しい貨物情報の報告が実現できる。
H31-038	航空貨物	OLT（AIR NACCS）の情報出力	OLT	AIR NACCSのOLT時に、保税運送貨物情報を保税蔵置場に配信	年間50件程度	AIR NACCSのOLTが保税蔵置場に配信されない。	SEA NACCSと同じように保税蔵置場にOLTを配信する。若しくは、AIR NACCSのOLTの出力の有無を保税蔵置場の選択制とする。	SEA NACCSに慣れている港湾地区の営業倉庫でも、SEA NACCS使用時と同じようにAIR NACCSも使用出来るようにする。
H31-039	航空貨物		CHT	貨物取扱登録C（特殊貨物）	ほぼ毎日	現行の仕様では、貨物取扱登録C（特殊貨物）「CHT」のキャンセルを行うと、過去全ての取扱記録が削除されてしまう。	削除回数を指定出来る様仕様変更。	取扱を実施した履歴が、NACCS情報ファイルに正確に残り、料金計算においても正確な数値で計算可能となる。

No.	業務区分	業務内容	業務コード	変更等事項	使用頻度	現行内容	変更等要望内容	効果
H31-040	航空貨物		HCC	貨物取扱手数料変更情報登録	ほぼ毎日	現行の仕様では、貨物取扱手数料変更登録（HCC/減算）を行うと、取扱手数料が減算されるが、変更登録間違い、その他の理由で取扱手数料減算をキャンセルしようとしても一旦変更登録をしてしまうと変更が出来ない。	貨物取扱手数料変更登録（HCC）実施後、同登録のキャンセルを可能とすることによって正確な貨物取扱手数料の計上が可能となる。	貨物取扱手数料変更登録（HCC）のキャンセルを行った履歴をデータ情報ファイルに残すことが可能になる。また、蔵置料金データ情報ファイルにも正確な貨物取扱手数料の計上が可能となる。
H31-041	航空貨物		CHN	貨物取扱登録A（内容点検/CHN）	ほぼ毎日	現行の仕様では、貨物取扱登録A（内容点検/CHN）にて内容点検を登録する際に、貨物取扱控えを出力させるためには、「入力情報特定番号」の欄に「A」を入力しなければならない。	貨物取扱登録A（内容点検/CHN）を登録すると自動で貨物取扱控が出力するように仕様変更。	貨物取扱登録A（内容点検/CHN）を登録する際に「入力情報特定番号」の欄に「A」の入力忘れにより貨物取扱控の出力漏れを防ぐことが可能となる。
H31-042	航空貨物		CHS01	貨物取扱登録B（改装・仕分/CHS）	ほぼ毎日	現行の仕様では、貨物取扱登録B（改装・仕分/CHS）にて改装仕分を登録する際に、貨物取扱控えを出力させるためには、「入力情報特定番号」の欄に「A」を入力しなければならない。	貨物取扱登録B（改装・仕分/CHS）を登録すると自動で貨物取扱控が出力するように仕様変更。	貨物取扱登録B（改装・仕分/CHS）を登録する際に「入力情報特定番号」の欄に「A」の入力忘れにより貨物取扱控の出力漏れを防ぐことが可能となる。
H31-043	航空貨物		CFS01	貨物取扱確認登録（改装・仕分/CFS）	ほぼ毎日	現行仕様では、貨物取扱確認登録（改装・仕分/CFS）にて改装仕分確認登録を行う際に、「REPORT ON RESULT OF HANDLING CARGO」を出力させるためには、「取扱変更」欄に「Y」を入力しないと「REPORT ON RESULT OF HANDLING CARGO」が確認登録実施保税蔵置場および貨物取扱入力代理店のNACCS端末から出力しない。	貨物取扱確認登録（改装・仕分/CFS）を登録すると自動で確認登録実施保税蔵置場および貨物取扱入力代理店のNACCS端末から「REPORT ON RESULT OF HANDLING CARGO」が出力するように仕様変更。	貨物取扱確認登録（改装・仕分/CFS）を登録する際に「取扱変更」の欄に「Y」の入力忘れにより「REPORT ON RESULT OF HANDLING CARGO」の出力漏れを防ぐことが可能となる。
H31-044	貨物共通	貨物在庫状況照会	IWS	IWS：貨物在庫状況照会	毎朝	IWS B/L順でしか表示されない	IWS：貨物在庫状況照会で1から順にでてきますが、現在のB/L NO.順だけではなく、搬入日順に並び替えができるように選択肢を増やしてほしいです。見落としがないように毎日、輸入・輸出の照会していますので、どうぞご検討をお願いいたします。	見落とし防止・外貨の貨物があった場合、既定の期間内に税関に連絡しなければならないので、1番上になるようにしてもらおうと見落とし防止になると思います。
H31-045	貨物共通	輸入貨物情報照会 輸出貨物情報照会 貨物情報照会	IAW IGS ICG	貨物情報確認（IAW, IGS, ICG）□	日本全体で1日 数百回	①貨物情報確認する毎にNACCSへアクセスして確認しなければならない。 ②情報確認作業毎 課金されている	①履歴情報が更新された際、自動的に案内（データ）が送られるシステムにして頂きたい。 （通関許可データのようなイメージ） ②回数制限無し、又は、情報が更新された時のみ課金するシステムにして頂きたい	緊急貨物で少しでも早く通関、搬出を必要とする場合、現場スタッフは、他の業務の合間に頻りに貨物情報確認を行っている。自動的に情報データが配信されれば、自動的に搬出指示書の印刷等が可能となり、待ち時間に他の業務を行う事が出来効率上がる。

No.	業務区分	業務内容	業務コード	変更等事項	使用頻度	現行内容	変更等要望内容	効果
H31-046	貨物共通	移入承認	IDA	保税工場でAIR NACCSが使用出来る様にして欲しい	4回/1月	・IM(移入)で入荷する外貨品はSEA NACCSでの保税工場の登録は出来るがAIR NACCSは使用出来ないで片道1時間かけて税関へ提出している。 (2H+0.5H)×4=10H/1ヶ月 ・保税蔵置場はSEAもAIRもNACCSが使える	・保税品(IM)はSEAでもAIRでも保税工場に登録する	「併せ運送通知情報」が出力されるので処理ミスが防げる。保税担当者の時間の拘束が減る。
H31-047	貨物共通	機用品業に係る保税蔵置場のIS後の貨物管理について	SHS等	業種：機用品業に係る保税蔵置場(機用品蔵置場)において、蔵入承認(IS)後の貨物管理をNACCSで行うことができない。 なお、当該保税蔵置場は、第6次NACCSにおいて海空共用化している。		機用品蔵置場に搬入した海上貨物を、併せ運送なしで蔵入れ承認申請(IS)を行って税関により承認されている。 (「貨物在庫状況照会(IWS)」にて貨物識別「E」(蔵入承認済貨物)として照会し、B/L及びIS承認日を確認している。) しかし、当該蔵入れ承認貨物のうち、一部を他の保税蔵置場へ再ISするため、「貨物取扱登録(改装・仕分け)(SHS)」をしたところエラー「E0217 入力された貨物管理番号は蔵入承認されているが、蔵入承認済貨物の貨物管理を行う蔵置場に蔵置されていない。」が表示された。引取を急ぐことから、SHS等はマニュアルで行い再ISを行った。	第6次NACCS更改時に、保税蔵置場の海空共用化に合わせてIS後の貨物管理を行うと選択していたと記憶しているが、現在どのようになっているのか確認してほしい。また、海空共用化された機用品蔵置場にてIS後の貨物管理を行うためには、どのような申込みを行えばよいのか。	
H31-048	海上通関	輸出申告事項登録	EDA	EDA(輸出申告事項登録)のバン詰め場所の住所欄を増やしてほしい。	10件/日	バン詰め場所のコードは5か所あるが、所在地の入力欄が1か所しかない。複数ある際は、所在地を記事欄に入力が必要となる。工場バンの申告で、複数本のコンテナ通関のときに該当する。1本目は利用できるが、2本目からは記事欄に入力することになり、入力作業、確認作業が煩雑である。	所在地の入力欄を1か所から3か所くらいまで増えないか。	入力作業時間の短縮、省力化、タイプミスによる誤謬発生のリスクを低下させること効果が予想される。
H31-049	海上通関	検査搬出の対応	CYO	PKI後に1コンテナをCHJで情報仕分けし、その後複数申告し、一部が検査になった場合の搬出について		PKI後に1コンテナをCHJで情報仕分けし、その後複数申告し、一部が検査になった場合、CYO(K)がエラー(注)となり、CYO(K)の業務実施ができない。 (注)エラーコード：E0054-OKD-0000(1コンテナに複数BLが存在する場合は、同一の輸入申告等であること)	CHJでBL仕分けを行った後にCYO(K、またはスペース)業務を送信可能としていただきたい。	管理台帳に反映される。長期在庫にならない。
H31-050	海上通関	輸出の積戻し申告(EDA)における、バンニング場所の入力	EDA	輸出の積戻し申告(EDA)における、バンニング場所の入力省略	積戻し申告は、月1、2件	輸出の積戻し申告において、輸入したコンテナに入ったまま、CY通関で積戻し申告をして貨物を送り返す際は、日本にバンニング場所が存在しないので、ブランクとすべきであるが、入力を強制されてしまう。	上記において、強制入力としめない設定としてほしい。	虚偽の申告を回避できるようになる。(前NACCSでは、入力不要であった。)

No.	業務区分	業務内容	業務コード	変更等事項	使用頻度	現行内容	変更等要望内容	効果
H31-051	海上通関		EDA	輸出申告事項登録(EDA)	毎日10件から50件程度	輸出申告の事項登録において、保税上屋や保税蔵置場に一旦蔵置しバンニング後にCYで輸出申告をする場合、CYに未許可蔵置中になるまで、保税地域をCYにした輸出申告入力控が出力出来ません。そのため、貨物の搬入を確認しCYに搬入された後に、改めてEDA画面で保税地域をCYに訂正しなければならず手間がかかっており、また急ぎの申告の場合、頻繁に貨物の搬入状況を確認しなければなりません。	保税上屋や保税蔵置場に蔵置中の状態であっても、保税地域にCYを入力して輸出申告入力控が出力されるよう変更を希望します。	保税地域以外を入力内容をチェックし通関士の審査を受けるために、申告する蔵置場所と異なる上屋や蔵置場を入力した輸出申告入力控が出力する必要がなくなり、かつICGで貨物の搬入状況を確認する回数を減らすことができるという効果があります。
H31-052	海上通関	輸入申告事項登録・輸入申告事項呼出し・輸入申告	IDA IDB	事項登録時間の印字	都度	AIR-NACCSでは入力控や許可書に許可時間の印字がされているが SEA-NACCSでは印字されない。	入力控えに出力時間を印字して頂きたい。許可書の印字は無理でも入力控えに印字することで、訂正後の最新のものがどれか分かり易くなる。	訂正後の最新のものがどれか分かり易くなる。
H31-053	海上通関	輸入通関	IDA SID	IDA SID(輸入申告)で1申告で10B/Lまで申告を可能として頂きたい。	年間300件程度	運用上、分割申告が不可となっている貨物の申告があり1申告で6 B/L以上となる申告がある。当該申告はマニュアル申告となっている。	IDA SID(輸入申告)で1申告で10B/Lまで申告を可能として頂きたい。	MSXでの電子送付が可能となり、マニュアル申告が削減される。また、申告官署自由化のメリットも享受される。
H31-054	海上通関	見本持出許可申請(MHA) 見本持出確認登録(MHO)	MHA MHO	見本持出許可申請(MHA)実施後、見本持出確認登録(MHO)前に、仕分・改装(SHS)を行えないようにエラーが掛かるようにしていただきたい。	週に1程度。	見本持出許可申請(MHA)実施後、見本持出確認登録(MHO)前に、仕分・改装(SHS)を行うと、貨物管理番号末尾にA等のアルファベットが付与されてしまい、見本持出許可申請(MHA)実施時の貨物管理番号(親B/L番号)と見本持出確認登録(MHO)実施時の貨物管理番号(子B/L番号)が異なり、見本持出確認登録(MHO)業務が行うことができなくなってしまう。	見本持出許可申請(MHA)実施後、見本持出確認登録(MHO)前に、仕分・改装(SHS)を行おうとした場合、現行の注意喚起だけでなく、エラーとなって仕分・改装(SHS)を行えなくなるようにロックが掛かる仕様にしていただきたい。	保税業務上、非常に重大な非違事例である見本持出確認登録(MHO)業務の未実施の防止に繋がる。
H31-055	海上通関		EDC	特定輸出申告貨物が許可された際の承認通知情報の数値を全体の数値に	程毎日	特定輸出申告の許可通知の電文の数値が、許可となったタイミングでの貨物の蔵置数量によって異なる。	特定輸出申告自体が蔵置する必要なく行え、許可されるものなので申告種別が特定輸出申告ならば蔵置数量関係なく貨物の全体の数量で出力して貰いたい。	許可・承認貨物情報の電文をシステムに取り込む際などにコンテナに関連付けられたSAT0241等の電文との齟齬が生じにくい。
H31-056	海上通関	EDC・EAC 出力情報コード： SAE4081 EAC	EDC/EAC	許可・承認貨物(輸出)情報	600件/月	輸出許可済みの貨物をCFSに持ち込む際に慣習的にCFS倉庫が要求する「輸出許可通知書」を持参している。	輸出許可済み貨物のCFS持ち込みの際に、保税蔵置場から要求される輸出許可書に代えて、新規業務「(仮称)許可・承認貨物(輸出)情報」業務を追加し「輸出許可通知書」に代えて『許可・承認(輸出)通知書』を出力する。その出力先に新たに「通関業」を加える。また、「輸出入許可通知書」の出力時には、この『許可・承認貨物(輸出)情報』を同時に出力する(「輸出許可内容変更」があった場合にも同様に出力が必要)。	貨物情報の情報セキュリティーが確実に実行される。(輸出許可通知書上の価格情報等の漏洩を回避する)。『許可・承認(輸出)通知書』のフォームレイアウト、情報項目等は別途検証する。

No.	業務区分	業務内容	業務コード	変更等事項	使用頻度	現行内容	変更等要望内容	効果
H31-057	海上通関	IDC・MP2 出力情報コード： SAD4311	IDC/MP2	許可・承認貨物（輸入）情報	50件/月	許可情報の配信先は「保税蔵置場」・「船会社」・「CY」となっている。輸入許可済みの貨物をCFSより引き取る際に「輸入許可通知書」を持参している。	輸入許可済み貨物をCFSより引き取る際に、保税蔵置場から要求される輸入許可書に代えて、新規業務「（仮称）許可・承認貨物（輸入）情報」業務を追加し「輸入許可通知書」に代えて「許可・承認（輸入）通知書」を出力する。配信先に「通関業」を加える。	輸入貨物情報についても情報セキュリティが確実に実行される（上記と同様）。
H31-058	海上通関		RSS11	輸入コンテナ引取予定情報通知（ID通知）呼出し	毎日	現状の弊社利用ではゲートウェイ経由でのナックスメール受信（EXC型）となり担当者毎に返信内容を判断している。	RSS11（輸入コンテナ引取）の電文受信場所をNET-NACCS使用時、NET-NACCS利用PCへ即時電文（INO型）として返信してほしい。	業務処理時間の大幅な短縮。
H31-059	航空通関	輸入申告事項登録 輸入申告事項呼出し 輸入申告	IDA、IDB、IDC	関税暫定措置法第4条航空機免税（以下暫4）では輸入者と輸入取引者が連帯保証など所定の書類を税関に提出し認められた場合に限り、輸入取引者の担保を使用して納期限延長で輸入申告できる。現システムでは暫4で税関が認めていない輸入取引者の担保番号が入力でき申告許可になってしまう。暫4で税関が差し押さえできるのは輸入者担保、通関業者担保、連帯保証など提出で税関が認めた輸入取引者担保である。連帯保証など提出で税関が認めていない輸入取引者の担保番号を暫4航空機免税で入力できるのは明白な欠陥であるので、入力できないように変更していただきたい。業務コード名：IDA、IDB、IDC。	六甲通関課では月間10件だが、税関が差し押さえできない担保で申告許可できてしまう現システムの欠陥を放置することは国賊行為である。	関税暫定措置法第4条航空機免税（以下暫4）では輸入者と輸入取引者が連帯保証など所定の書類を税関に提出し認められた場合に限り、輸入取引者の担保を使用して納期限延長で輸入申告できる。現システムでは暫4で税関が認めていない輸入取引者の担保番号が入力でき申告許可になってしまう。暫4で税関が差し押さえできるのは輸入者担保、通関業者担保、連帯保証など提出で税関が認めた輸入取引者担保である。	関税暫定措置法第4条航空機免税（以下暫4）では輸入者と輸入取引者が連帯保証など所定の書類を税関に提出し認められた場合に限り、輸入取引者の担保を使用して納期限延長で輸入申告できる。現システムでは暫4で税関が認めていない輸入取引者の担保番号が入力でき申告許可になってしまう。暫4で税関が差し押さえできるのは輸入者担保、通関業者担保、連帯保証など提出で税関が認めた輸入取引者担保である。連帯保証など提出で税関が認めていない輸入取引者の担保番号を暫4航空機免税で入力できるのは明白な欠陥であるので、入力できないように変更していただきたい。業務コード名：IDA、IDB、IDC。	国税（関税、輸入消費税など）の確実な徴収。
H31-060	航空通関	混載貨物確認情報登録 HAWB情報登録（輸入）呼出し	HPK、HCH	突合後、許可まで時間を要する件について	ほぼ毎日	輸入準備申告貨物にて発生している案件 HPK、HCHが完了し突合をしている貨物において、突合後～許可が出るまで時間を要するものが発生している。（最大7～10分程度）	データを確認していると、突合後「IMI」処理がなされるのに時間を要しているように見受けられる。NACCS側での処理を早くすることはできませんでしょうか？	搬入後すぐに許可が下りることで迅速な搬出までが可能となる

No.	業務区分	業務内容	業務コード	変更等事項	使用頻度	現行内容	変更等要望内容	効果
H31-061	航空通関	輸入申告事項登録	IDA	プライスレンジと同様に、過去の統計上の実績と比較して数量に乖離がある場合は、「価格再確認識別」の項目に警告を表示させるようにする。項目の表示も「価格・品目番号再確認識別」へ変更する。	毎日	価格及び数量等がシステムに登録されている価格の範囲外である場合にコードで出力されるが、過去の統計上の実績と比較して数量に乖離がある場合には出力されない。	プライスレンジと同様に、過去の統計上の実績と比較して数量に乖離がある場合は、「価格再確認識別」の項目に警告を表示させるようにする。項目の表示も「価格・品目番号再確認識別」へ変更する。	事後に税関統計課からの調査依頼で発覚する前に、許可前に確認、修正が可能となり、正しい統計情報が記録できる。
H31-062	航空通関	輸入貨物情報照会	IAW	IAW「輸入貨物情報照会」の多数件の一括送信（許可確認）結果のCSVファイル化	毎日	1件ずつの送信	多数件の一括送信を可能にし、結果をCSVファイル化できるようにする	一度に多数のAWBIに対する許可確認が容易になる
H31-063	航空通関	S/I情報登録 輸入指示書登録	EIR IIR	航空輸出入における輸出入者業務「S/I情報登録（EIR）」「輸入指示書登録（IIR）」の後続業者とのデータ連携	特定商品においては多	航空輸出入において、現在、輸出入者が行う業務は「S/I情報登録（EIR）」と「輸入指示書登録（IIR）」の2つであるが、これはNACCSにデータを登録するだけの業務であり、後続業者は、このデータを使う連携業務が不可能となっている。	航空輸出入において、現在、輸出入者が行う業務は「S/I情報登録（EIR）」と「輸入指示書登録（IIR）」の2つであるが、これはNACCSにデータを登録するだけの業務であり、後続業者とのデータ連携業務となっていない。特定輸出入品によっては、後続業務を行う業者とのデータ連携は必須であり、輸出入者が入力した「EIR」「IIR」データを後続で利用出来るように連携業務として貰いたい。	航空貨物の中には、通関業者と数度に渡る確認を経た上で輸出入を行う貨物があり、本連携が実現した際には間違いない通関が実現する。
H31-064	航空通関	輸入申告事項登録	IDA. AHK	IDA. AHK 運賃や評価金額を入力できないので、ほぼすべての申告で価格再確認 [L] となる。これは、運賃や評価金額を加算すれば価格異常にならない物なので、価格再確認 [L] を出さないでほしい。	週 4～5 件	運賃や評価金額が、欄ごとの価格に加算されていないため価格再確認 [L] が頻発する。	引き取り申告の際は、価格再確認 [L] を出さないでほしい。	税関からの問い合わせが減り、業務時間のロスが減る。

No.	業務区分	業務内容	業務コード	変更等事項	使用頻度	現行内容	変更等要望内容	効果
H31-065	航空通関	輸出貨物情報登録 呼出し 輸出申告事項登録	CDB EDA	CDB、EDA等		<p>航空貨物における特定委託輸出申告について。</p> <p>①保税地域搬入前に特定委託輸出申告を行う場合、貨物情報登録（CDB）の搬入予定蔵置場欄には、搬入予定保税地域コードを入力する。通常、航空会社の保税地域コードを入力することになるが、ほぼ全ての航空会社の保税地域は輸出申告制限表示のフラグを立てていることから、これらコードをCDBで入力してもエラーが発生する。 （CDBを完了できない＝EDA特定委託輸出申告が出来ない）</p> <p>②上記①でCDBが可能であった場合でも、入力した保税地域を管轄する税関が貨物の蔵置官署となり、税関検査を蔵置官署で受けなければならない。</p> <p>③輸出許可が下りても、LDRが発行されない。航空会社は貨物受入時にLDRの提示を求めており、LDRをもって貨物が外国貨物であることの確認も行っている。LDRが発行されないと、航空会社側の受け入れも難しい。 また、保税地域搬入前に特定委託輸出申告を行うと、輸出許可が下りても、貨物情報に輸出許可済みのステータス（CLR）が付与されない。よって、航空会社側は当該貨物の輸出許可が下りているかをNACCS上確認することができない。</p>	<p>●認定通関業者に、特定委託輸出申告専用の施設コードを付与する。 （当該コードをCDB、EDAの搬入予定蔵置場欄に入力する） 又は、CDB及びEDAの搬入予定蔵置場欄に、保税地域バスケットコードの入力を可能とする。</p> <p>●上記コードを使用した際に、LDRの出力を可能とする。出力先は、認定通関業者側で決定できるようにする。</p> <p>●特定委託輸出申告許可が下りた貨物に、輸出許可済みのステータスを付与する。</p> <p>以上</p>	特定委託輸出申告の件数増加。
H31-066	航空通関	輸入申告	IDC	予備申告後、本申告起動時のFLT情報上書き。（IDC）		HCH登録後の予備申告において、予備申告後にFLT情報が変更になった場合、本申告起動時にFLT情報がアンマッチとなり本申告起動エラーとなり、都度訂正が必要となる。	HCH登録後の予備申告において、予備申告後にFLT情報が変更になった場合、本申告起動時にFLT情報を上書き処理するよう仕様を変更してほしい。 （個数、重量等に変更があった場合を除く）	予備申告利用の利便性が向上する。
H31-067	航空通関	減免税コード過入力	IDA	納税額に影響等ない、減免税コード：00111を過入力した場合、エラーとなる仕様の追加	約200件/月	民間航空機貿易に関する協定の対象産品（税番）、かつ関税無税、かつ原産地が協定国の場合、IDA時の減免税コード欄に「00111」を入力する必要がありますが、該当しない産品（税番）、原産地であっても入力可となっており、過入力したまま申告することが散見されます。 （申告先税関から指摘うけ、申告後訂正や許可後訂正となることが散見されます）	入力不要な税番・原産地の場合、入力不可（エラー）となるよう仕様変更をお願い致します。	IDA時、入力要否を都度確認することが不要となり、業務効率の向上（申告までの時間短縮、許可後の税関含めた関係者の無用な業務等の低減）及び適正な輸入申告に寄与できると思っています。

No.	業務区分	業務内容	業務コード	変更等事項	使用頻度	現行内容	変更等要望内容	効果
H31-068	航空通関	IDA時の運賃について、妥当額を外れる場合に注意喚起メッセージが表示される仕様の追加	IDA	IDA時の運賃について、妥当額を外れる場合に注意喚起メッセージが表示される仕様の追加	約3,000件/月	IDA入力時において、運賃の通貨単位を誤認して入力（例：誤USD、正JPY）、書類作成者・審査通関士ともに遺憾ながら誤入力に気付けないまま申告、区分1で許可となる通関事故が発生。 ※重量(KG)あたりJPY31,759という航空運賃となっていた。	例えば、重量(KG)あたりの運賃がJPY1,000を超える場合やJPY10未満の場合、入力控に注意喚起メッセージが表示されるよう仕様変更お願い致します。 ・妥当金額の設定及び小口貨物（例：10KG未満の貨物）には表示させない、等は、各通関業者（利用者コード別・航空/海上別）にてNSS等で随時設定、変更できる仕様希望。	入力控の注意喚起メッセージによって、輸入申告書類作成者・審査通関士ともに、運賃の誤入力に気がつきやすくなり、修正申告・更正請求事案の更なる低減につながり、税関含めた関係者の無用な業務等の低減及び適正な輸入申告に寄与できると思慮いたします。
H31-069	航空通関	輸入通関	IDA	輸入申告事項登録	毎日	INN該当品目の税番かどうか調べる時間がかかる。	INN該当品目税番は注意喚起が出るようにしてほしい。	書類作成の効率化が期待できる。
H31-070	航空通関	輸入通関	IDA SID	IDA AID(輸入申告)でも複数AWBの申告を可能として頂きたい。	僅少	運用上、分割申告が不可となっている貨物の申告があり1申告で6 B/L以上となる申告がある。当該申告はマニュアル申告となっている。	航空NACCSと海上NACCSが共用化となったが、海上NACCSで可能となっている複数B/Lの申告が航空NACCSでは不可となっている。海上NACCS同様に複数B/Lでの申告を可能として頂きたい。 NACCSが対応出来ていないことを理由にマニュアル申告となっている。	MSXでの電子送付が可能となり、マニュアル申告が削減される。また、申告官署自由化のメリットも享受される。
H31-071	航空通関		MMA	見本持出許可申請（MMA）業務	1年に3～4回	NACCS参加保税地域のみ NACCSの申請が可能となっている。	NACCS不参加保税蔵置場でNACCSの貨物情報がある場合にはNACCSの申請を可能としていただきたい。	税関官署へマニュアル申請が不要となり、申し出の時間等業務の短縮となる。
H31-072	通関共通	輸出申告一覧データ	H01	輸出入者調査票のC. 輸出入許可情報出力登録(通関業者に出力される「輸出入許可情報」を同時に出力する場合)で自社通関の輸出入許可書も同時に出力できるようにしてほしい。	毎日発生の都度	輸出入者調査票で、C. 輸出入許可情報出力登録(通関業者に出力される「輸出入許可情報」を同時に出力する場合)をチェックするが、通関業者が申告した許可書しか同時出力できない。	営業所日本各所で自社通関での申告が存在しており、それらの情報も本社の輸出入者利用者コードで集約受信する必要がある。通関業者が行った、という縛りはずし、申告情報の輸出者/輸入者のみで条件を設定して出力できるようにしてもらいたい。配信電文のH01輸出申告一覧データ/151輸入申告一覧データも目次として利用できるので輸出入者にも受信できるようにしてもらいたい。	輸出入者が自社通関、他社通関をすべての申告情報を漏らさず受信することができるので、事務のスピードアップが図れ、税関/経済産業省の監査にも漏れなく迅速に対応できるようになる。
H31-073	通関共通	管理資料	H01	H01「輸出申告一覧データ」(CBE5100)への出力項目の追加	月報	「通関士コード」欄なし	「通関士コード」欄の追加	通関士毎の申告件数の把握
H31-074	通関共通	汎用申請業務	HYS	申請手続種別コードの追加	二日に1回	汎用申請業務の対象外	「輸出等申告撤回」を汎用申請業務として追加	自由化申告にて蔵置官署以外の税関官署に申告した場合、即時の申告撤回が必要な案件に対応できない。申告撤回に時間を要するため、顧客からの苦情に繋がり、リカバリーするための追加費用が発生することがある。通関業者の業務・費用負担の軽減が期待できる。

No.	業務区分	業務内容	業務コード	変更等事項	使用頻度	現行内容	変更等要望内容	効果
H31-075	通関共通	食品等輸入届出	IFA	IFA 作成時の蔵置場所誤りの場合エラー通知	毎日	食品等輸入届出事項登録の際に蔵置場所が実際の蔵置場所と異なってもエラーが表示されません。IDA、IDCの場合はエラーで IDA の場合はエラー表示、IDCの場合は NACCSがはじいてくれます。	蔵置場所が異なった場合は IFAではエラー表示、IFCではIDC同様はじいて欲しです。	誤った申請の防止。
H31-076	通関共通	食品等輸入届出	IFA	厚生労働省管轄食品衛生法における食品等輸入届出及び食品等輸入届出済証の送受信業務の輸出入許可通知と同様のEDI送受信（ゲートウェイ接続）ebMS処理方式による対応	多	厚生労働省管轄食品衛生法の食品等輸入届出及び食品等輸入届出済証の送受信業務は、netNACCSにおいて、送信者（主に通関業者）のみ送受信可となっており、輸入者は送信者（主に通関業者）から、FAX等で取得している。	厚生労働省管轄食品衛生法の食品等輸入届出及び食品等輸入届出済証の送受信業務は、netNACCSにおいて、送信者（主に通関業者）のみ送受信可となっており、輸入者は送信者（主に通関業者）から、FAX等で取得している。これを 1. 輸入者が厚生労働省にebMS処理方式にて届出及び届出済証が取得出来るようにして貰いたい。 2. 通関業者がnetNACCSにより届出した場合には、届出済証をEDI受信（ゲートウェイ接続）ebMS処理方式により輸入者にも送信して貰いたい。	輸入者が自ら他法令の申請をNACCS上で行えるようになることで、トレードコンプライアンスの意識が高まり、また、通関業者が実施した申請においてもいち早く結果がわかることから通関効率があがる。
H31-077	通関共通	輸入動物・植物検査関連業務	IPA	農林水産省管轄輸入動物・植物検査関連業務における検査申請及び証明書送受信業務の輸出入許可通知と同様のEDI送受信（ゲートウェイ接続）ebMS処理方式による対応	多	農林水産省管轄輸入動物・植物検査関連業務における検査申請及び証明書の送受信業務は、netNACCSにおいて、送信者（主に通関業者）のみ送受信可となっており、輸入者は送信者（主に通関業者）から、FAX等で取得している。	農林水産省管轄輸入動物・植物検査関連業務の検査申請及び証明書の送受信業務は、netNACCSにおいて、送信者（主に通関業者）のみ送受信可となっており、輸入者は送信者（主に通関業者）から、FAX等で取得している。これを 1. 輸入者がebMS処理方式にて検査申請及び証明書が取得出来るようにして貰いたい。 2. 通関業者がnetNACCSにより検査申請した場合には、証明書をEDI受信（ゲートウェイ接続）ebMS処理方式により輸入者にも送信して貰いたい。	輸入者が自ら他法令の申請をNACCS上で行えるようになることで、トレードコンプライアンスの意識が高まり、また、通関業者が実施した申請においてもいち早く結果がわかることから通関効率があがる。
H31-078	通関共通	輸出入許可データ		NACCSから許可データの送信先の複数対応	現時点、日々の受信を想定しております。（許可後、随時）	グループ会社の統制及びガバナンス強化の為、輸出入許可データの一元管理を行いたいと考えております。しかし、許可データの送信についてNACCSセンターへ質問した際の回答は、荷主（許可/申告者以外の第三者）へのデータ提供は、1つの宛先に限られるとなっております。	荷主への許可データ提供は、複数宛先対応をご検討お願いいたします。	親会社として、グループ会社の許可データを一元管理する場合に、グループ会社が独自に許可データを活用していても、受信が可能となります。そのようになれば、グループ会社から親会社への許可データの送信作業が不要となり、IT投資の抑制へとつながると考えております。
H31-079	通関共通	輸入申告事項登録	IDA	IDA 納期限延長 納税方法 口座番号 担保番号がblankだと納付書が出力されるが、納付書を出力する場合にも納税方法に何かコードを入力するようにする。	月1,500~2,000件	納期限延長 納税方法 口座番号 担保番号がblankだと納付書が出力される。	納付書を出力する場合にも納税方法に何かコードを入力するようにする。	納付書出力の際にも意識的にコードを入力する事によって、誤ってblankのまま申告してしまい、納付書を出力してしまうことを防ぐ。
H31-080	通関共通	輸出入者情報照会	IIE IIE01	【IIE】 【IIE01】	毎日使用	法人番号検索【IIE01】においては、現行、法人番号照会のみとなっている。また、【IIE】、【IIE01】は機能が分離している。	【IIE01】については、英名からも検索可能な改修を望む。また、結果欄に輸出入者符号欄も印字を望む。 【IIE】輸出入者符号検索とリンクしてもらいたい。	業務効率の向上（検索時間短縮）

No.	業務区分	業務内容	業務コード	変更等事項	使用頻度	現行内容	変更等要望内容	効果
H31-081	通関共通	食品等輸入届出事 項登録	IFA	【 I F A 】	毎日使用	食品届の入力については、現行、横 1 0 0 文字、3 列での入力となっている が、 各列の入力項目は品目毎に入力する 必要があり、多品目ある時に入力が困 難。	文字列の増列（5 列～1 0 列）を希望 する。	業務効率の向上（時間短縮）
H31-082	通関共通	申告添付登録	MSX	【 M S X 】	毎日使用	M S X で誤って添付した書類を削除し た場合、累積量からも減らしてほしい。 例えば、3 M の添付ファイルを削除 した場合、残り 7 M 分しか使用出来な い。	削除しても 1 0 M 使用可能にしてほし い。	業務効率の向上
H31-083	通関共通	輸出申告事項登録 輸出申告事項呼出	EDA EDB	輸出申告事項登録： E D A 輸出申告事項呼出： E D B	毎日	印刷した事項登録控の右上に、日時表 記はない。	事項登録控右上に、日時印刷ができる よう選択式にしてほしい。	・入力履歴を容易に確認することがで きる。 ・時系列に沿って業務内容を説明する 際に有効活用できる。
H31-084	通関共通	輸出申告 輸入申告	EDC IDC	航空輸出入申告 E D C、 I D C	毎日	許可書右上に、日時が印刷される。	許可書右上に、日時を印刷しないよう 選択式にしてほしい。	許可書の日時表記印刷の有無を選択で きる。
H31-085	通関共通	輸出申告事項登録 輸出申告事項呼出 輸出申告	EDA EDB EDC	輸出申告 E D A ・ E D B ・ E D C 輸出者コードと貿易管理サブシ ステムで電子発給された許可承認書 等番号の情報紐付け。	毎日	貿易管理サブシステムで電子発給され た（輸出承認番号等識別コードの末 尾「J」）輸出許可・承認書につい て、当該輸出者が受けた輸出許可・承 認書と違う番号を入力した場合でも、 事項登録・申告が可能。	輸出者コードと貿易管理サブシステ ムで電子発給された（輸出承認番号等 識別コードの末尾「J」）輸出許可・ 承認書番号の情報を紐付けする。 E D A ・ E D B ・ E D C 事項登録・申告時、輸出者コードと輸 出承認番号等に入力された許可・承 認書番号を参照→輸出者コード/輸出 許可・承認番号の一致がとれない場 合、エラーとなる。	輸出許可・承認書番号の入力誤りによ る誤申告を防止できる。
H31-086	通関共通				毎日使用	ガードなし	二つの官署コードを持つ税関官署（成 航南部と北部）については自由化申告 の受け皿とならない官署（南部）が 存在するので当該官署に（誤って）自 由化申告が入らないようガードを設定し てもらいたい。	業務効率の向上（検索時間短縮）
H31-087	通関共通	輸入申告事項登録	IDA	IDA時エラーコードW0023 統計数量(N/W)がシステムシス テム登録の重量(G/W)を超えた場合 に出力されるアラート	2~3件/日	IDA時に統計数量(N/W)がシステム登録 の重量(G/W)を超えた場合、アラート が出力されているが、以下に該当する 場合アラートが出ない仕様となっている。 1. N/Wの合計がG/Wの120%以内（航 空）103%以内（海上） 2. 複数欄の申告において、少額等 で統計数量が入力されていない欄が存 在する場合。	アラートの対象をN/W > G/Wとする （許容範囲を無くす）とともに、統計 数量が入力されていない欄が存在する 場合でも、入力されている欄だけの合 計で対査するよう仕様を変更してほし い。	統計数量の誤入力が削減され、貿易統 計をより正確に取得することが可能と なるとともに、申告書類の誤作成防止 につながる。

No.	業務区分	業務内容	業務コード	変更等事項	使用頻度	現行内容	変更等要望内容	効果
H31-088	通関共通			輸入許可後の申告書、許可書の訂正		輸入許可後に当初申告書、許可書の内容に誤りが判明した際は、原本訂正にてマニュアル対応している。(輸入者名、課税価格、納税額等重要項目は除く)	許可後も一定期間内はシステムでの訂正を可能としてほしい。(輸入者名、課税価格、納税額等重要項目は除く)	税関、通関業者共に手続きが簡素化される。
H31-089	通関共通	輸入申告	IDC	Zダメージ貨物の申告 (IDC)		貨物情報にZダメージが登録されていても、IDC時申告エラーとならない。	貨物情報にZダメージが登録されている場合、Zダメージが解除されるまでIDC申告エラーとなるよう仕様変更をしてほしい。	Zダメージ貨物の誤申告防止。□
H31-090	通関共通	通関系関連省庁添付登録(検疫所(食品))	MSF01	なし	なし	なし	MSF01で2度目以降は前に送ったデータを一度削除して、前送った資料と追加の資料を送ることが手間になっています。MSXのように、追加形式で資料を送れるように改善のご検討をお願いします。	なし
H31-091	通関共通	輸出申告事項登録	EDA	なし	週5回	なし	輸出申告事項登録で建値を“FOB”にして金額を入力してFOBの欄に違う金額を入れてもエラーにならないので、エラー表示をしてほしい。(EDA)	なし
H31-092	通関共通	輸出申告事項登録	EDA	業務内容：輸出申告事項登録 業務コード：EDA	毎月10回以上	インボイス番号の入力桁数が35桁である。このため、インボイス番号が複数件ある場合、当項目の入力値が35桁を超えてしまう場合がある。	インボイス番号の入力桁数を35桁から105桁に増加する。	入力可能な桁数を拡大することで、他の入力欄にインボイス番号を入力する必要がなくなり、インボイス番号の番号管理が容易になる。
H31-093	通関共通	外為法 電子ライセンス情報照会	JTS	(貿易管理サブシステムのNACCS統合の際に) 当該IQをJTSにて照会できるようなプログラム修正を行ってほしい。	2017.12 業務実施件数：7497 エラー件数：4	当該IQに付属する、ILの集約処理に時間がかかり、パッケージソフトのタイムアウトとなることがある。よって、「A0011」(センターがビジーである)のエラーを出力しています。	(貿易管理サブシステムのNACCS統合の際に) 当該IQをJTSにて照会できるようなプログラム修正を行ってほしい。	
H31-094	通関共通	関係省庁業務コード		NACCS業務コードと関係省庁コードを統一化することの提案		NACCS用コードの「包装種類コード」と輸入食品監視支援業務関連コードの「積込個数単位コード」で同じものでありながらコードが異なることから統一してほしいとの要望があった。これについて、要望は「スキッド」の“SI”と“SD”に関するものであったが、他にも「セット」や「スラブ」も異なっている。 自社システムで輸出貨物情報をACL(船積確認登録)業務に連携する際、荷姿「スキッド(SKID)」は「SD」を使用しているが、ACL業務では「SI」と認識されるため、都度、手入力で「SI」に訂正している。	(改善案) NACCS用コードと関係省庁で使用しているコードに相違があることから、NACCS用コードに統一する。 また、相違がある旨、NACCS掲示板にお知らせを掲載すべきではないか。	

No.	業務区分	業務内容	業務コード	変更等事項	使用頻度	現行内容	変更等要望内容	効果	
H31-095	通関共通	輸出自動車情報登録	MOA	輸出入者に対する「輸出許可自動車情報」データの提供		「輸出許可自動車情報」は自動車を輸出した際にリサイクル預託金の還付申請で求められる書類であり、日々使用される可能性は高いと考察されます。	データ取得不可	現在、輸出入者に提供していない「輸出許可自動車情報」データ提供を要望致します。	中古自動車だけでも年間150万台以上の輸出実績があり、それらを輸出する企業のほぼ全てがリサイクル預託金の還付申請を行っており申請に使用される「輸出許可自動車情報」が提供された場合、利便性が向上し利用者の増加も見込まれます。
H31-096	通関共通		AMA	修正申告事項登録(AMA)	10件/月間		修正申告前及び修正申告後とも、税額等を計算し全てのデータを入力しなければならない。	輸入申告事項登録(IDA)メニューと同様に課税価格と関税率、内国税率を入力することで税額等を自動で計算するように変更。	修正申告事項登録での入力ミスを防止することができる。
H31-097	通関共通	DLI02「当初輸入申告呼出し(修正申告)」業務の利用可能時間の拡大	DLI02	DLI02「当初輸入申告呼出し(修正申告)」業務の利用可能時間の拡大	約30件/月		DLI02「当初申告情報呼出し(修正申告)」依頼の登録により、システム内部で当初輸入申告情報呼出し処理が起動する仕様となっていて、10:00から18:45の間に10分間隔で行われ、18:45以降に登録した場合は、翌日に起動する仕様となっている。貨物の引取を急ぐ通常の輸入申告を優先する必要あり、修正申告に対応できる時間が18:45以降となってしまう場合が散見され、業務効率が低下する一因となっている。	例えば、9:00から20:00までの登録分について、当日の呼出し処理となる仕様への変更お願い致します。 (可能な範囲で、当日の呼出し処理となる時間を拡大お願い致します)	修正申告の業務効率向上につながり、波及効果として翌日の通常の輸入申告についても業務効率の向上(申告までの時間短縮)及び適正な輸入申告に寄与できると思っています。
H31-098	通関共通	当初輸入申告情報呼出し(修正申告)	DLI02	修正申告情報の呼出し可能の権限	都度		当初申告した通関業者のみ当該業務による当初申告情報の呼び出しが可能。これにより当初申告した通関業者以外が修正申告する場合、全ての項目をAMA(修正申告事項登録)にて手入力する必要があり、非常に作業が煩雑となっている。また、当初申告した通関業者のみ利便性を享受しており、輸入者からの修正申告の依頼における公正な競争を阻害している。	当初申告した通関業者以外でも呼び出し可能としてほしい。	1. 入力項目が半分以下となり効率化が図れる。 2. 通関業者間の差別がなくなり、取引の公正な競争が図れる。
H31-099	通関共通	輸出申告事項登録	EDA	申告日入力欄	都度		入力控作成時、申告日を同月の場合は日のみの入力でも良かったが新システムでは年月日を入力しなければならなくなった。	同月の場合、日を入力するだけでいいか？	入力業務の省力化を図る事が出来る
H31-100	通関共通	輸出申告	EDC	特定輸出申告のエラー通知	5件~30件/日		特定輸出免許の付与条件が、指定された保税蔵置場での特定輸出申告に限定されている場合であっても、貨物が未搬入の状態でも特定輸出申告できる仕様となっている。	貨物が未搬入の状態でも特定輸出申告した際に、エラー通知が出るようにしてほしい。	エラー通知が出ることにより、貨物が未搬入の状態での特定輸出申告を防ぐ事ができる。
H31-101	通関共通	輸出申告	EDC	複数の輸出申告を一括で行う	毎日		輸出申告画面では、申告単位で入力が必要なため、申告単位で送信フォルダに保存した後、一括送信(申告)を行っている。	輸出申告画面において、複数の輸出申告番号を入力できる様、改善してほしい。	入力業務の簡素化が図れる。

No.	業務区分	業務内容	業務コード	変更等事項	使用頻度	現行内容	変更等要望内容	効果
H31-102	通関共通	管理資料	EEC等	管理資料として配信希望	都度	①EEC 輸出取止め再輸入申告を実施しても、151輸入申告一覧データ等に含まれず、管理資料として配信されない。 ②開庁申請件数が配信されない ③管理資料の配信、今は10項番のみである ④マニュアル申告（カルネ、別送品等は配信されていない）	通関業取扱明細簿に記載が必要な以下の申告等について151輸入申告一覧データ等を含めて配信を希望します。 ①輸出取止め再輸入申告 ②開庁申請件数 ③他法令（食品、植検等） ④見本持出申請 ⑤マニュアル申告（カルネ、別送品等）	営業報告書に記載すべき実績件数を検証する資料となりうる。取扱明細簿への記載漏れを防ぐ事が出来る。
H31-103	通関共通	照会業務	IAW ICG	IAW、ICG等によって税関の審査開始時間等が参照できる機能の追加	約100件（回）/月	輸入申告において、審査区分が2・3等になった場合で許可までに時間が掛かる際、税関の審査状況等を確認する為、弊社から申告先税関へ電話による照会等をしております。	IAW、ICG等のNACCS照会業務によって、税関の審査開始時間等が参照できる機能や、MSX等で送信した添付ファイルに対する開封確認等できる機能追加いただくよう仕様変更お願い致します。	弊社含めた通関業者から税関への電話による照会等が低減され、業務効率の向上（許可までの時間短縮）に寄与できると思慮いたします。
H31-104	通関共通	IDA輸入申告事項登録	IDA	混載貨物(LCL)等 予備申告する際の記号番号入力	相当数	予備申告後、貨物の搬入が上がり、些細な記号番号の相違がかなりあるため、本申告時 変更の必要があり、税関が審査終了していても再度の審査終了が必要。	貨物の記号等 欄、ブランクによる自動補完	誤謬防止。申告番号の枝番がなくなり区分2、3においては税関再審査必要なし。本申告後、許可になるため、貨物搬出がスムーズ。
H31-105	通関共通		IDA	IDA	1~2件/月	石油石炭税はリットル(もしくはキログラム)に掛かるのにIDAの課税標準数量はキログラムで表示され、小数点第二位までの表示。(輸入許可通通知書参照)	石油石炭税のコード(Q20)を入力した場合、リットルでの表示にする、もしくはキログラム表示を小数点第三位までにする。	国内消費税欄の辻褄が合う。
H31-106	通関共通	IDA時のインボイス価格条件(建値)について、課税価格が自動計算されるインボイス価格条件(建値)の追加	IDA	IDA時のインボイス価格条件(建値)について、課税価格が自動計算されるインボイス価格条件(建値)の追加	約1,000件/月	IDA入力時において、課税価格が自動計算されるインボイス価格条件(建値)は「FOB」「C&I」「C&F」「CIF」の4種類となっており、それ以外のインボイス価格条件(建値)の場合、課税価格を自動計算させたいので、上記4種類のうち類似のコードを入力するが、この場合、実際取引の価格条件を「記事(税関)」欄に入力する必要あり。業務効率が低下する一因となっていることに加え、入力漏れ、入力間違い等が発生し、税関から指摘受け申告後訂正等となることが稀に発生。	例えば、「EXW」「FCA」等、使用される頻度の高いインボイス価格条件(建値)について、課税価格が自動計算される仕様への変更お願い致します。 (可能であれば、上記以外の建値についても追加お願い致します)	誤申告等の更なる低減につながり、税関含めた関係者の無用な業務等の低減及び適正な輸入申告に寄与できると思慮いたします。
H31-107	通関共通	輸入通関	IDA	輸入申告事項登録	毎日 5~10件	IDAで送信後、輸入申告入力控でチェックを行う際、仕入書価格とBPR合計が合致しているかどうかを確認している。しかしながらIDAの繰返部画面のBPR係数ではなく、課税価格欄に金額(日本円)を強制入力した場合には、その合計額が入力控には出力されません。そのため各欄のBPR金額(BPR案分係数ではなく)の合計を手計算で行いCIF価格との合致をチェックしているという事務作業を行っている。	IDAの繰返部画面のBPR係数欄ではなく、課税価格欄に金額(日本円)を強制入力した場合のBPR合計欄にその合計額を出力するようにして頂きたい。	上記合計金額とCIF金額をチェックすることにより、その入力に誤りが無いことの指標の一つとなる。事務作業も効率的になり、また誤りの無い適正な申告につなげることができる。

No.	業務区分	業務内容	業務コード	変更等事項	使用頻度	現行内容	変更等要望内容	効果
H31-108	通関共通	輸入通関	IDA	輸入申告事項登録（海上・航空とも）	毎日 数10件	別紙参照 ■原産地識別入力時のガード（ワーニング）の強化 BP申告のため貿易形態符号コード『142』、申請理由『3B』を入力し、本来はBP用原産地証明書識別『AST7』（EPAに基づく原産地証明書の提出猶予申請を行う貨物）を入力するところ、『AST4』（EPAに基づく原産地証明書の提出がある貨物／通常申告）で誤入力するもエラーとなりません。その逆のパターンで貿易形態符号コード『118』、申請理由『入力無し』原産地証明書識別『AST4』と入力しても同様にエラー表示はなくIDAの送信ができてしまいます。 上記は日アセアン協定を例にとったが、他の原産地コード、原産地識別コード（一般特惠の場合の『GSTP』⇔『GSTO』も含む。）においても同様の結果となります。	別紙参照 BP申請理由コード『3B』は提出猶予であり、手元に原産地証明書が「ない」にも関わらず、手元に「ある」状態で申告出来てしまう状態を下記のようなプログラム変更等により改善をお願いしたい。 ① IDAでの送信ができない様プログラム変更を行う。 ② 申請理由コード『3B』は『原産地証明書又は原産品申告書の提出が遅れる』という内容になりますが、もし原産地証明書の提出が遅れるにも関わらず、原産地証明書が手元に「ある」という状況が実際に存在する場合には「BP申告であるが識別が不一致」、「再確認する」等の警告を発生するプログラムに変更をお願いしたい。	通関非違の削減。
H31-109	通関共通	輸入通関	IDA	輸入申告事項登録	毎日	他法令コード「CR」について、関税法70条関係許可承認にCRを入力せず輸入承認証番号等欄にCRNOと入力してもエラーにならない。（この逆もある）	エラーが出るようにしてほしい。	非違・誤謬の削減に役立つ。
H31-110	通関共通	輸入通関	IDA	輸入申告事項登録	毎日	税率が基本FREEであるのにEPA適用のコード入力（T4等）でエラーにならない。	エラーが出るようにしてほしい。	非違・誤謬の削減に役立つ。
H31-111	通関共通	輸入通関	IDA	輸入申告事項登録	ほぼ毎日	担保番号を入れて申告する場合担保残高をIAS業務で調べ直している	IDAにて輸入申告入力控えを印刷した際に残高を表示するようにしてもらいたい	業務効率の向上
H31-112	通関共通	輸入通関	IDA	輸入申告事項登録	毎日	少額合算の自動計算機能がない。	自動計算できる機能を付けてもらいたい（ON/OFFできる機能も）	書類作成の効率化が期待できる。
H31-113	通関共通	輸入通関	IDA	輸入申告事項登録	毎日	HS末尾のコードが同じ符号があるのでわかりにくい。（特にE）	少額、再輸出免税が同じEなので種類ごとで違うコードを設定してもらいたい。	非違・誤謬の削減に役立つ。

No.	業務区分	業務内容	業務コード	変更等事項	使用頻度	現行内容	変更等要望内容	効果
H31-114	通関共通	包括評価の自動計算	IDA	IDA（事項登録情報）の包括評価において、自動計算できる範囲を拡大してほしい	都度	保険を包括評価において計算している。包括評価申告書の計算式は調整率が小数点以下第11位までであるが、現行NACCSでは自動計算されないため、計算した保険料を手入力している。現行NACCSでは調整率が小数点以下第3位までであれば自動計算が可能である。	自動計算できる範囲を、小数点以下第11位までにしてほしい。	保険料を手入力する手間が省け、入力ミスも防ぐことができる。また、本船遅延等でR A T Eが変更になっても、保険料を訂正する必要がない
H31-115	通関共通		IDA	I D A	随時	初期ナックスの時代から現在第6次まで依然として、 関税法基本通達73-3-2(1)に 規定する BP承認（一定の 期間内に複数回分割して輸入されるセット課税品のBP）については、システム処理対象外 となっている。	上記セット課税品の BP をシステムにて処理できるよう変更していただきたい。	現状ではセット課税品ではセット課税品のBPはすべてマニュアルの為、税関への申告みならず銀行への納付、保蔵置場への許可通知等も紙媒体により対応しなければならぬ。システム処理が主流となっている現在の通関業務においては非効率かつ不便であり、これを解消する効果がある。
H31-116	通関共通		IDA	輸入申告事項登録（IDA）	15件/週 位	共通管理番号欄に番号を入力し、その横の食品（恐らく植防、動検も）欄に実際の共通管理番号で紐付けた届出件数と違う件数をいれてもエラーメッセージが出ない。	食品（恐らく植防、動検も）欄に入力した件数と、共通管理番号で紐付けた届出件数が一致しない場合はエラーメッセージがでるようにしてほしい。	システムによる申告誤りの防止。
H31-117	通関共通		IDA	IDA(輸入申告事項登録)	毎日	輸入申告における入力控作成の際、現行NACCSでは換算レートを入力する箇所無く通関年月日から自動で算出されるシステムとなっている。	新たに換算レートを入力する箇所を設けてほしい。	仮に新設された換算レートの欄にレートを入力しない場合はその週の通関レートが払い出されるシステムにして頂き、過去のレートを入力出来るように変更して頂ければ自主修正申告の手計算による書類作成後の確認に役立ち手間や間違いも減る効果が期待出来るのではないかと考えます。
H31-118	通関共通		IDA AMA IMW	① 輸入申告（IC）輸入許可前貨物引取承認申請（BP）等（IDA） ② 修正申告（AMA） ③ 移出輸入（IMW） ④ 保税運送、外貨船用品積込	① 月、20～30件ほど ② 年、5件ほど ③ 月、70～80件ほど ④ 月、80～90件ほど	① 輸入申告等の「申告入力控」の納付方法にかかる、口座番号および担保番号が送信後確認できない（ナックスデータ、書面両方とも） ② 入力時の延滞税が自動に計算されるため、修正申告予定日と異なった延滞税額が「申告入力控」に記載される。 ③ 消費税額を確認して会計検査の欄に対象のものは「K」と入力している。 ④ 保税作業から作られた製品の保税運送、外貨船用品積込NACCS業務が無い	① 輸入申告等の「申告入力控」の納付方法にかかる、口座番号および担保番号の標記追加 ② 修正申告の申告予定日を入力することができれば、そこから自動で申告予定日の延滞税を計算し、書面で確認可能にしていきたい。 ③ 自動計算で対象となるものは自動で表記してもらいたい。 ④ NACCS業務を追加してもらいたい。	① 過去の申告内容の確認を迅速に行える。 ② 書面で確認する際、誤解を招くことが無くなる。 ③ 入力のし忘れを防止できる。
H31-119	通関共通	輸入関連業務	IDA EDA	輸出入申告書の仕入書番号にA（原本）、B（代わる書類）と識別していますが、今、必要でしょうか？	月に数件。	輸出入申告書の仕入書番号にA（原本）、B（代わる書類）と識別している。	輸出入申告書の仕入書番号にA（原本）、B（代わる書類）の識別が要らないのではないか。	入力項目が減り、ミスが減る。

No.	業務区分	業務内容	業務コード	変更等事項	使用頻度	現行内容	変更等要望内容	効果
H31-120	通関共通	輸出入通関	IDA EDA	全業務（特に輸入申告（IDA）・輸出申告（EDA））	年間6万件程度	NACCSには有益なワーニングが多数出ており、6次NACCS更改においてもワーニングの内容充実が図られている。ワーニングは無視して業務を進めることが可能となっているが、ワーニングの見落としが発生する場合も多い。特に輸入申告（IDA）や輸出申告（EDA）では、NACCSへのデータ入力者（入力控え作成者）と審査担当者が異なる場合、ワーニング内容が見落としが発生し、非違・誤謬にの発生に繋がっている。	輸入申告（IDA）や輸出申告（EDA）においては、ワーニングの内容を入力控え・申告控えに印字する（別紙でも可）。また、事項登録を呼び出した際にも、ワーニング箇所を識別して明確にする。なお、印字の有無について選択制とする。他の業務においても、入力控え等の印刷時には印字を行う。※エラー表示や、送信完了表示は印字の必要無し	有益なワーニングを見逃したことによる申告時の非違・誤謬の発生を未然に防ぐ（本来のワーニングの意義を達成する為）
H31-121	通関共通	輸出入通関	IDA EDA	AIR NACCSとSEA NACCSの選択の自動化	年間6万件程度	AIR NACCSとSEA NACCSが共用化されているが、申告時に都度システム識別の変更が必要になっている。業務によっては変更せずとも可能となっているものもある。NACCSのエラーメッセージを見ると、AIR NACCSの申告かSEA NACCSの申告かを自動で判別している。	AIR NACCSとSEA NACCSの申告を、都度、システム識別の変更をせずとも、申告可能として欲しい。	システム識別の変更を行う煩わしさがなくなり、スムーズな申告が可能となる。
H31-122	通関共通	申告先税関の初期表示	IDA EDA	現行より細かく設定できる仕様の追加	IDA:約300件/月、EDA:約1,000件/月追加	「認定通関業者用申告官署調査票」により、航空/海上のみしか申告先税関が設定できない。	NSS等で利用者コード別、蔵置官署コード別、輸出申告・輸入申告別、輸出入者別に随時設定、変更できるように仕様変更お願い致します。	IDA、EDAでの都度の変更が不要となり、業務効率の向上（申告までの時間短縮）及び輸出入者の要望等に対して間違いの発生しにくい状況になると思慮いたします。
H31-123	通関共通		IDA EDA			①IDA 申告欄数99欄までしか入力できない。 ② EDA AIR AWB枝番/03（01+02の仕合せ）の場合搬入前申告できない。 ③ EDA 欄部の貿易管理令コード入力したコードがそのまま表示される。 ④ 自動印刷が個別設定しないとダメになった。	①申告欄数200欄かそれ以上に対応できるようにしてほしい。 ② 仕合せ前の手入力段階でも搬入前申告できるようにしてほしい。 ③ 貿易管理令コードを入力した際に該当項番が表示されるようにしてほしい。 ④ 以前のように自動印刷はある程度まとめて設定できるようにしてほしい。	
H31-124	通関共通	①輸入申告事項登録、 ②貨物情報照会 ③関税割当関連業務	IDA ICG TQA TQB	金額やWEIGHTの小数点以下の表示及び総重量の位取り	都度	①金額やWEIGHTに端数がない場合小数点以下2桁まで印字されない、整数で入力すると小数点以下が表示されなくなってしまうので、今まで通り表示するようにしてほしい。 ②貨物情報照会の総重量の欄の数値が位取りされていない為見た目に数値的な把握が容易ではない。例）総重量 35178.000KGM ③関割通関数量欄の数量について、小数点以下3位まで入力出来るようになったが、小数点以下の数字が無い場合、強制的に〇〇.000と入力しない限り、小数点以下が表示されない。	①入力控の申告価格や統計数量など、小数点以下2桁までの表示にして欲しい。 ②大きな数は、数値の把握がし易いよう、3桁毎に位取りして欲しい。 ③小数点以下の数字がゼロの場合でも自動で小数点以下第3位まで表示されるようにしてほしい。	①2桁目が0であっても印字された方が見易くなる ②数値の把握がし易く、誰もが読みやすくなりミスが減る ③表示画面で小数点以下があったりなかったりすると非常に見辛く、ゼロを多く（少なく）入力してしまった場合に気付きづらいのだが、自動で小数点以下3位まで表示されると入力ミスに気付きやすくなる。また残数量も見易くなる。

No.	業務区分	業務内容	業務コード	変更等事項	使用頻度	現行内容	変更等要望内容	効果
H31-125	通関共通		IDA等	IDA等	ほぼ毎日	<p>HS自動表記関連</p> <p>① HSから自動出力される品名が紛らわしく以前出ていた文言が出なくなった</p> <p>4407.29- 「TROPICAL」表示が無くなった。 4407.99-と同じ品名で紛らわしい。</p> <p>4418.99- 品名全て一緒に細分も似通って紛らわしい。以前はサイズが出ていたのが見分け易かった。</p> <p>4407.12-190 「FIR」しか出なく「ETC」表示がないので単品HSに見えて不安に駆られる。</p>	<p>HS自動表記関連</p> <p>① HSから出力の品名を頼りに審査を進められるので、スピードが上がり採番ミスも減少できる。</p> <p>4407.29- 熱帯産=「TROPICAL」表示希望 4407.99-と違えてもらえば別の表示でもかまわない。</p> <p>4418.99- 品名全て一緒に細分も似通って紛らわしく、ミスを誘っているとしか思えない。</p> <p>せめて断面積や片方のサイズ表示位の違いを出していただきたい。</p> <p>4407.12-190 「FIR」と「SPRUCE」の番号なので、せめて「ETC」か「OTHER」程度は表示希望。</p>	入力ミスの減少及び更なる作成スピードアップが見込まれる。
H31-126	通関共通	輸入通関	IDC	貨物搬入後の予備申告を実施不可にする		予備申告を行える時期は貨物の搬入前であるが、現行のNaccsでは貨物の搬入後にも予備申告を行うことが可能となっている。	貨物搬入後の予備申告を現状可能としている理由がないのであれば、貨物搬入後の予備申告を実施不可にしていきたい。	
H31-127	通関共通	輸入通関	IDD→IDC	予備申告（IDC）後の官署を超えての保税地域の変更（IDD→IDC）ができる仕様へとお願いいたします。	2ヶ月の間に4度	<ul style="list-style-type: none"> ・輸入申告において自由化申告を適用し、神戸税関管轄の保税地域であって先税関を大阪税関南港出張所へ予備申告します。 ・当初貨物が神戸保税地域へ搬入予定が、様々な都合により大阪南港保税地域へ変更回送されることにより、貨物搬入場所が大阪南港の保税地域へ変更。 ・本申告をする際、保税地域を神戸から大阪南港地域へ訂正をするができない。 ・結果、予備申告を撤回し再申告を行う。 ・上記は1例です。 	<ul style="list-style-type: none"> ・予備申告後においても、官署をまたがったの保税地域の訂正を可能にして頂きたい。 ・エラーコード（E0166ST）通関予定蔵置場コード 	<ul style="list-style-type: none"> ・自由化申告の制度では可能であるので、システム上での不可能をなくせば制度の有効利用が高まり利用の増加が見込めます。 ・予備申告撤回によるリードタイムのロスが無くなり輸入者にとっての利便性は高まります。
H31-128	通関共通	輸入申告一覧照会	ID1 IES	輸入申告一覧照会（ID1）等	年間5万件程度	輸入申告一覧照会業務が官署やシステム識別を跨いだ照会が出来ない為、毎日、海上・航空それぞれで官署毎にID1で進捗状況を確認している。1/3はエラー送信でありNACCSへの負荷も掛っている。	輸入申告一覧照会（ID1）等において、利用者コード毎に一回の送信で、宛先官署やシステム識別に関係なく、照会が出来るようにして欲しい。若しくは、新業務を作って頂きたい。	輸入申告一覧照会（ID1）等の利便性拡大と、エラー送信によるNACCSへの負荷軽減

No.	業務区分	業務内容	業務コード	変更等事項	使用頻度	現行内容	変更等要望内容	効果
H31-129	通関共通	輸入申告一覧照会	IDI IES	輸入申告一覧照会（IDI）等	年間5万件程度	申告添付登録（MSX）業務で税関へ書類を送付しているが、添付漏れが生じる事がある。申告添付一覧照会（IMS）で申告番号毎に送付の有無を確認しているが、手間が掛っている。	申告添付登録（MSX）業務が済んでいるかの確認を申告添付一覧照会（IMS）で申告番号毎にMSX済みの確認を行う事は可能だが一覧で確認を行いたい。 輸入申告一覧照会（IDI）で照会を行なっているので、申告番号毎にMSX済かどうか判るように表示をして欲しい。	申告添付登録（MSX）漏れの防止の為に確認作業軽減と、輸入申告一覧照会（IDI）の利便性拡大
H31-130	通関共通	輸出申告等一覧照会 輸入申告等一覧照会	IES IDI	申告等一覧照会情報（IES業務、IDI業務）に法人番号だけでなく、輸出入者名を表記してほしい。	毎日	申告等一覧照会情報（IES業務、IDI業務）の輸入者欄には、法人番号だけの表記しかありません。	申告等一覧照会情報（IES業務、IDI業務）の輸入者欄に、法人番号だけの表記だけでなく、輸出入者名を表記してほしい。	輸出入者名の表記があれば、管理資料との紐づけもしやすく、どこの輸入者なのか一目で分かります。
H31-131	通関共通		IFA	現在、食品の届出はNACCSで可能ですが、確認願に関しては、マニュアルで提出し、押印頂いています。入出力装置の設置の届出をしている輸入者に関しては、確認願に関しても、NACCSで願書の受理・確認をお願しいたい。	案件発生都度。	確認願は、輸入届出を要しない食品等について、税関等に提出を求められた際に使用することになっていますが、実際には後でトラブルにならないよう、ほとんど確認願を取得している状況であります。取得に際しましては、事前に輸入者へ押印頂いたオリジナル書面を、厚生省へ持ち込み、確認印を頂くという作業が発生しています。	入出力装置の設置の届出をしている輸入者に関しては、NACCSを利用した確認願の提出及び確認作業を可能として頂きたい。税関に提出する場合はMSXでの添付が可能であり、基本的にオリジナル書類の提出はしていないため、IDAの輸入申告と連動できれば、より利便性が高まると思います。	通関関係書類提出の簡素化、他法令手続き等の電子化の推進効果が高まる。
H31-132	通関共通	食品届	IFA		ほぼ毎日	①IFDで訂正後、枝番（1になった番号）でIIFを見て訂正前にOKになったままで更新されない。 ②品目登録が紙提出 ③品目登録がNACCSで検索できない。 ④同一荷主の申請でまとめて申請できない。 ⑤入力装置の届出も紙提出。 ⑥記事欄の入力数が少ない。 ⑦連絡票の文字数が少ないため、何枚も出てきて紙の無駄。	①訂正後の更新がされるようにしてほしい。 ②NACCSで申請ができるようにしてほしい。 ③NACCSで品目登録番号や輸入者コードで内容が検索できるようにしてほしい。 ④申告番号をまとめて入力し、パスワード入力が1回で済むようにしてほしい。 ⑤NACCSで届け出ができるようにしてほしい。 ⑥文字数を増やしてほしい。⑦文字数を増やしてほしい。	①審査状況の正確な確認に役立つ。 ②-⑤業務の効率化に役立つ ⑥、⑦無駄を省ける。
H31-133	通関共通	食品申請業務	IFA	申請欄の削除・追加	毎日	食品申請の欄が1～7まで入力出来るが欄の番号を変更したり、1欄だけを削除・追加出来ない	欄数の所の1欄のみ削除・追加・欄の入れ替えを可能にして欲しい。（以前は可能であった）	種類の多い食品申請の簡略化
H31-134	通関共通	食品届	IFA	食品等輸入届出事項登録	ほぼ毎日	ケースマークを入力する際、ICGからコピー貼り付けを行うが、一行ごとにコピーしなければならない。	ICGのケースマーク欄が数行繋がっている場合でも一気にコピーできるようにしてもらいたい	業務効率の向上
H31-135	通関共通	食品届	IFA	食品等輸入届	ほぼ毎日	IFC後に食品監視課からの連絡書が送信されてくる場合、欄ごとに印刷される（7欄ある場合は1欄ごとに7枚印刷される）	1枚の紙に7欄まとめて印刷されるようにしてもらいたい	書類が見やすくなり業務効率が向上する

No.	業務区分	業務内容	業務コード	変更等事項	使用頻度	現行内容	変更等要望内容	効果
H31-136	通関共通		IFA IFB 等	IFA、IFB等	ほぼ毎日	輸入他法令（FD）関連 ①B/L番号がキーとなっているが、IDBと違って貨物情報が自動補完されていない（船名・入港日など）のでキーを入力する意味が無い。 ②FDの蔵置場所の名称漢字表記は申請控のみで、入力控（現状コードのみが出力）では出ない為チェックする時ミスに気づきにくい。	1. 他法令関連 ①B/L番号から「船名・入港日」等、貨物情報が利用できる場所は反映して入力を極力減らしていただきたい。 更にはIDBのようにB/L番号で呼出し入力も希望。もし補完する必要が無いのなら、B/L番号自体入力しなくても。 ②FDの蔵置場所の名称漢字表記は申請控だけではなく、入力控でも表示してくれなければ片手落ちだと思う。	入力ミスの減少及び更なる作成スピードアップが見込まれる。
H31-137	通関共通	IFA/IFC/IIF	IFA IFC IIF	IFA/IFC/IIF	月間10件	食品検疫所の審査が終了しているかどうか判別できない。	IID業務のように審査終了時はその表示日付が出るように願いたい。	状況の把握が容易。食品検疫所確認が不要
H31-138	通関共通	IFC食品届	IFC	事前届での搬入日の制限	20件/日	搬入日が1年後の日付でも入ってしまう。	1年後の日付では入らないようにする。	誤入力が防げる。不必要な訂正がなくなる。
H31-139	通関共通	関係省庁業務 （動物検疫）	ILC	CAJ0102の合格通知の中の記載内容	月に2,3回。	動物検疫検査合格通知書に輸入者名はありますが、法人番号は無い。	動物検疫合格通知書に法人番号の記載があった方がよい。動物検疫合格通知書に法人番号が入力されていない。記載されている方が、色々な意味で取扱いがしやすい。	動物検疫合格通知書に法人番号が記載されていないのはいかがなものでしょうか。通関関係、食品届、植物検疫は法人番号が記載されています。請求や書類関係を法人番号で管理している業者も少なくないのではないのでしょうか。
H31-140	通関共通		IXX IMS もしくは管理資料	IXX IMS もしくは管理資料	5回以上/日	連続して照会できず、新たにIXXを呼び出す必要がある	ICGのように次の管理番号を続けて照会できるように変更	複数の照会の手順が簡略化される
H31-141	通関共通	見本持出許可申請業務	MHA MMA	見本持出許可申請業務（MMA）に法人番号や、輸出入者名を表記してほしい。	月に数件。	記載内容に法人番号や輸入者名を記入する欄が無い。	見本持出許可申請書に法人番号や輸入者名が記載されている方が、色々な意味で取扱いがしやすい。	表記があれば、色々な資料との紐づけもしやすく、どこの輸入者なのか一目で分かります。
H31-142	通関共通	輸出自動車整理番号の登録	MOA	輸出自動車整理番号の重複防止	50件/日	MOA業務にて、輸出自動車整理番号が過去のMOA業務で登録済みの番号であってもエラーが出ず登録が出来る（結果2重登録になる）。	過去にMOA業務で登録済みの輸出自動車整理番号は、MDL業務で取止めを行わないと再登録を出来なくする（NACCSでエラーを出力する）。	輸出自動車整理番号が登録済みである情報を知り得ない中で、2重登録による不具合を防止できる。
H31-143	通関共通	輸出整理番号の入力業務	MOA	車両特定番号の自動的反映	50件/日	MOA業務にて、輸出整理番号を入力しても車両特定番号が自動的に反映しないため、書類を確認し車両特定番号を手入力している。	輸出整理番号を入力し、誤りがなければ車両特定番号が反映（自動入力）されるようにする。	輸出整理番号、車両特定番号の誤入力による不具合を防止できる。
H31-144	通関共通	MSX業務の失念防止	MSX	MSX業務失念警告メッセージ	都度	MSXを飛ばしわすれても特にエラーにならない。	（区分1で要提出等の場合で）MSXを飛ばし忘れた際、エラーが出るようにしてほしい。	MSXの飛ばし忘れ防止。

No.	業務区分	業務内容	業務コード	変更等事項	使用頻度	現行内容	変更等要望内容	効果
H31-145	通関共通	輸出入通関	MSY	MSY業務の機能拡張		輸出入申告が区分2、区分3となった場合はMSXで関係書類を添付して税関の審査を受けているが、審査状況によっては税関から資料についての補足的な質問とそれに対する回答の追記を求められる場合がある。この場合、現行のMSY業務では「通信文」だけの更新は不可能であるため、回答を追記した資料を再度スキャンし、再度添付する作業が発生することがある。	MSY、MSBで「通信文」のみの更新も可能とし、他の業務に影響を及ぼさない限りにおいて、食品の「CFH」業務のように送付した通信文の内容が時系列で確認できるような機能拡張を願いたい。	ペーパーレス化の更なる進展 業務量の削減
H31-146	通関共通	関税割当裏落内容仮登録	TQC	①IDA(事項登録情報)と関税割当裏落内容の申告官署情報のリンク ②関割裏落とし数量と申告書正味数量のリンク	都度	①IDA(事項登録)実施後TQC(関税割当裏落内容仮登録)を行なっているが、その後IDB業務により申告官署の変更をしても関税割当裏落内容の申告官署は変更されず、再度TQC業務で取り消した後、再登録が必要になる。変更せず申告した場合、官署チェックが行なわれていないため申告出来てしまう。 ②IDA(事項登録)と関割裏落内容がリンクしていない為、IDAで誤って輸入承認番号等の欄で「KANS」と入力すべきところを「KANW」にしてしまっても申告ができてしまう。	①事項登録情報の申告官署情報を訂正した際に関税割当裏落内容仮登録情報の官署情報も自動的に上書きされるようにして欲しい。又は申告出来ないようにエラーになるようにして欲しい。 ②誤って入力した場合にエラーがかかるようにして欲しい、可能であれば電子ライセンスのようにIDAの情報が関税割当裏落業務の時にある程度反映されるようにして欲しい。	①?自動的に上書きされる事で事故が減り、再登録の手間が省け且つ事故防止に繋がる。 ②誤って入力した関割数量がシステムで聞き落とされる事を防止できる
H31-147	通関共通		TQC	TQC 関税割当裏落内容仮登録	週30件程度	関税割当裏落内容仮登録に際しては、1つの関税割当登録番号に申告案件が何件かあっても、輸入申告1件につきTQC業務を1件ずつ行わなければならない。	関税割当登録番号に申告案件が何件かある場合、TQC業務を一度に複数件の裏落とし入力を選択できるようにしてもらいたい。	
H31-148	通関共通	予備申告業務の新設(IDCからの独立)	新設	予備申告業務の新設(IDCからの独立)	年間、50件程度	現在、予備申告を行う場合は、IDC(輸入申告)業務を呼び出し、「申告等番号」及び「申告条件」に予備申告コード(T、Z等)を入力し送信している。	予備申告のつもりが予備申告コードの入力もれにより、予期しない本申告とならないよう、予備申告の単独業務を新設されたい。業務の新設が困難な場合は、通常申告にも申告コードを新設し空欄による送信が制限される仕様とされたい。その場合は、「申告等番号」の前に「申告条件」を入力するよう入力順を逆に変更されたい。	申告撤回、再申告の処理をしなくても変更が可能となり、事務の迅速・効率化及び誤申告の防止につながる。
H31-149	通関共通	JASTPROコードと法人番号の紐付	多数	法人番号だけで全ての業務を可能	年間4万件程度	JASTPROコード・税関発給コードに変わり法人番号が導入されているが、法人番号だけでは包括保険・リアルタイム口座が使用出来ない。	法人番号のみで包括保険・リアルタイム口座を使用可能とする。	法人番号のみで申告に最低限必要な事項を登録可能とすることで、番号が複数あることの弊害や、更新管理が不要になり、申告手続きが簡素化される。

No.	業務区分	業務内容	業務コード	変更等事項	使用頻度	現行内容	変更等要望内容	効果
H31-150	通関共通	輸出入通関	現行NACCSには業務無し	現行NACCSには業務無し		輸出、輸入とも各申告のうち枝番が上がった申告に関して、通関士証番号、申告件数、その訂正内容、申告数全体の割合等の表を大阪税関内の各官署から紙としてその翌月にもらっている。 通関業者は毎月税関の通関総括部門に行きそれを受け取っている。税関は通関業者が訪れる都度それに対応している。	上記のデータをNACCSから管理資料として各通関業者が取れるように仕組みを変えて欲しい。	この帳票を必要としている業者はこのために税関に足を運ぶ手間が省ける。税関はプリントアウトをし通関業者に対応する手間も省ける。電子化の一部になると考える。
H31-151	通関共通	NACCS業務の新設		NACCS業務の新設	年間15～20件（当社実績）	①NACCSには業務がない ②ATAカルネ通関手帳に所定事項を記入。申告の際、各物品をHS分類と集計を行っている。 ③蔵置場所を管轄する税関の通関部門へカルネ手帳自体を提出して申告し、許可を受けている。 ④賦課課税が課せられた場合は、納付書により納付することになる。 ⑤再輸出入の際、上記①、②を再度行う必要がある。	①NACCSに「ATAカルネ通関」の業務を新設する。 ②カルネ手帳に記載の物品明細、価格等をNACCS上の入力画面に入力し、HS番号ごとの集計をNACCSにおいて行い、HSごとの価格、税額等を算出する。 ③カルネ手帳を税関に提示しなければ、税関での審査、検査が受けられないため、NACCSに登録された内容で審査、検査を実施し、カルネ手帳の提示後税関の確認等を経て、許可を受ける。 これにより、貨物管理番号との連動による許可情報が関係者に配信される。 ④マルチペイメントなどによる納税を可能となるようにする。 ⑤当初輸出あるいは輸入時に払い出された申告番号に基づいた許可内容（データ）を再輸出入時に呼出し・修正等することによって申告事項登録等を可能とする。	・カルネ通関は現在自由化申告の対象外であり、NACCS業務とすることで申告までの業務及び税関における申告内容の事前確認、審査と検査貨物の指定ならびに納税・徴税の効率化と確実な実施を実現できる。 ・再輸出入の事項登録業務の簡略化、整合性の確保を図りつつ、税関の審査等の一層の簡略化が実現できる。 ・今後、2020東京オリンピック等国際的競技大会等における需要に迅速かつ適正に対応することが期待できる。
H31-152	通関共通	共通通関		共通通関	BP通関時	BP通関時の提供担保額について、NACCSにおいて、関税、消費税、石油石炭税等について110%で自動計算がされる。石油石炭税は重量税であり、IBPにおける課税価格の変動に影響がないにもかかわらず、110%の担保額となって計算されている。 最終的には税関が担保額を入力した後、に許可になるが、年に数回、BP時に担保額が間違っただま承認される場合が発生しており、改善されない。 こういったことから、必要が無い過大の担保額により承認された場合、輸入者としては大きな負担となる。	担保額については、税関側による入力であるため、輸入者側としてはBP承認後にしか、ミスが分からないことから、承認後においては税関側にて訂正できるようにしてほしい。また、担保額の計算については、重量税である石油石炭税については、100%としていただきたい。 例えば、（消費税+地方消費税）×110%+石油石炭税100%としてほしい。	・担保額の間違ひによる、不要な積み増し等が回避できる。 ・輸入者の経費負担（担保手数料減）減となる。 ・不許可の危険回避（担保不足ではないのに担保不足表示による許可遅延）ができる。

No.	業務区分	業務内容	業務コード	変更等事項	使用頻度	現行内容	変更等要望内容	効果
H31-153	通関共通	共通通関		共通通関	IBP申告時	通関為替レートの保管期間が為替レート公示後約9週間であるが、現在のLNG等化石燃料の輸入取引実態は、取引価格他において年間又は年度清算されることとなっているため、BP承認から3か月以上経過してからのIBP申告に切替える事案が大半である。 そこで、3ヶ月以上経過したBPについてIBP申告する際には税関から荷主記事欄にレート記載して申告するよう指導されており、保管期間外のものについて毎回レートを手入力している。	・通関為替レートの保管期間（為替レートが公示されてから約9週間）の延長若しくはIBPの記事欄への自動表示をお願いしたい。 ・BP⇒IBP切替えにおいて、保管期間外のものについても、NACCSで自動計算できるようにしてもらいたい。	入力間違いの回避（非違の回避）
H31-154	通関共通	輸入通関		単位（UNIT）がⅠとⅡの二つあるHSの場合は、ワーニングとなっている単位を明確に表示して頂きたい。	単位（UNIT）が二つあるHSコードのうち価格レンジの設定がないHSを除く	※価格ワーニング時「L」「H」の2種類が表示されるが、単位（UNIT）が二つあるHS番号の場合に、単位Ⅰ、単位Ⅱの何れでワーニングが出ているのか現行の仕様では判別できない。そのため、以下の①及び②のケースでは、荷主に複数回ワーニング理由を確認をすることになり、荷主・通関業者共に二度手間となっており、荷主からは一度に纏めて問合せができないかとの要望を聞くことが多い。 ① 単位（UNIT）が二つあるHS番号の場合はⅠとⅡのいずれの単位に対するワーニングか判断できない。 ② 単位（UNIT）が単位Ⅰは「L」、単位Ⅱは「H」というような場合があり、どちらか判断できず、荷主への問い合わせミスにも繋がる恐れがある。 ※現行、②のケースの場合は単位Ⅱが優先でワーニングが表示され、単位Ⅱが解決した後に、単位Ⅰのワーニングが表示される。（単位Ⅱが解決されないと単位Ⅰのワーニングは表示されない。）	別紙 参照 ※価格ワーニング時「L」「H」の2種類が表示されるが、単位（UNIT）が二つあるHS番号の場合に、単位Ⅰ、単位Ⅱの何れでワーニングが出ているのか、あるいは両方で出ているのか、明確にして頂きたい。	1. 税関に対し「早期申告」及び正確なワーニング理由を「迅速」に提供することができる。 2. 荷主への確認が一度で済み、荷主・通関業者共に業務の効率化を図ることができる。
H31-155	通関共通	特例輸入者の期限内訂正		NACCSシステム化	5件/月	特例輸入者が関税・消費税の納期限までに行う期限内訂正は、マニュアルでの対応の為、紙面の提出、税関に確認印をもらうなど、窓口でしか対応できず、NACCSで行う事ができる修正申告、更正の請求に比べ、訂正可能な期限が設定されているにも関わらず業務が煩雑で時間がかかる。	NACCSに期限内訂正の業務を新設する。	期限内訂正について、NACCSに業務を新設することで特例輸入者、通関業者、税関の3者の手間を減らすことができ、また件数等もシステムで管理する事ができる。
H31-156	通関共通	検査指定票		検査指定票の対査業務システム化	都度	検査指定票をヤードに持ち込み、対査印をもらっている。	検査指定票の対査をNACCSでできるようになってほしい。ヤードがチェックを入れたらOKといったように。	対査に出る時間が短縮され業務に余裕ができる

No.	業務区分	業務内容	業務コード	変更等事項	使用頻度	現行内容	変更等要望内容	効果
H31-157	通関共通			許可後の輸出貨物（出港前）において、個数の訂正（変更）機能の改善		許可後の輸出貨物（出港前）において、個数の訂正（変更）が発生した時、大額から少額へ変更になる場合は、NACCSでの訂正（処理）ができない。	少額に変更になった場合も、NACCSでの訂正ができるようにして頂きたい。	NACCSでの管理が出来ることにより、税関および通関業者が、情報の共有をシステムにて行える。（マニュアル台帳を減らす事ができる）
H31-158	通関共通		MOA	MOA業務入力時におけるアラートの表示		現行、輸出自動車情報登録はNACCS端末にてMOA業務画面に入力した内容を送信しハードコピーを取り、番号チェックをしている。MOA情報登録入力チェックという目的は果たしているが、それ以上のチェック、アラートの機能はなく、行数、件数が増えるほど人力のみのチェックはおぼつかない。	MOA業務仮面送信時に車両特定番号の間違いについては業務メッセージ欄にアラートを発することはできないか。（それに準じたエラーをNACCS画面に発することはできないか）	現行、省庁間をつなぐNACCSシステムが機能しているため、これを利用した変更等要望内容を実現して頂ければ、MOA情報登録時の番号タイプミスは減少、省力化になる。
H31-159	通関共通			通信環境		輸出入許可書が申告を行った通関業者の指定した論理端末にしか配信されない。	IDA, EDAの入力項目に許可書出力先の利用者コード欄を設定し、指定した利用者宛に輸出許可書出力させる機能をお願いしたい。	申告官署の自由化により顧客管理部門と通関部門が別々（遠方）となる状況が発生している。上記のプログラムが実装されることにより輸出入許可書の送付などの事務作業を効率化できる。
H31-160	通関共通			延納使用分に関する、延納の締め時に出る納付書の出力方法について	月に1回、延納適用会社すべて	現在は延納番号に対して、利用者コード1つごとに延納納付書が出力されるため、自由化を開始したことで、同一官署に申告しているにも関わらず、利用者コードごとに分かれて納付書が出力される	輸入者若しくは通関業者からの申し出により、同一延納番号に対していくつもの利用者コードをまとめて納付書が出せるようにしてほしい	輸入者の納付書処理の回数を軽減することが出来る
H31-161	通関共通	輸入通関	JTB		月に2-3度	①BP→IBPの場合 BP申告時に重量、金額を登録し、承認→IBP終了後にBP承認の際に印刷しておいた輸入承認に最終輸入重量と金額を手書き訂正し、税関に提出して押印を貰う→経産省に紙を送付して裏書入力できるようロック解除を依頼→ロック解除の連絡があったからNACCSで訂正入力し、JTB終了を経産省に連絡して業務が完了。 上記のように裏書訂正業務に手間が掛かり、紙で出していた方が楽。 ②BP時の裏書登録で送状金額と通関金額の通貨が異なる場合、通貨の識別が1つしかないため正しく入力できず、備考欄にも入力できない。	①BP時の裏書登録だけでNACCSの輸入申告と連動するようにすればIBPの際の書き換えは不要になる。 ②送状金額と通関金額双方に通貨表記を入力できるように改善してほしい。	①業務の効率化、合理化に役立つ。 ②正確な申告内容を反映できる。

No.	業務区分	業務内容	業務コード	変更等事項	使用頻度	現行内容	変更等要望内容	効果
H31-162	通関共通	輸入通関	IDD IDE	税関出張所廃止に伴いIBPがシステムで出来ない不具合の修正	今回桜島出張所の廃止に伴い20件のマニュアルIBP手続きが必要となった。	税関出張所廃止に伴い、IBPがシステムで出来ない。 このため、1件ずつマニュアルのIBP申告及び納付手続が必要となっており、IBP1件のために半日以上時間を取られている。 ①マニュアルIBP作成後、IBP原本3部とはわたの提出が必要。 ②IBP当日、納付書・領収証書を収納から受取った後、銀行に納付、再度領収書を収納に提出等	税関出張所廃止に伴いIBPがシステムで出来ない不具合を修正してほしい。 これまで、各地で税関の都合で出張所が廃止されるたびに、通関業者が泣いているのはおかしい。また、税関の通関・収納担当者の方にも大変ご負担がかかっているように感じる。改善していただくことを、強く要望いたします。	各通関業者・税関担当の方の負担が大きく軽減される。
H31-163	海上貨物通関共通		ICG IDA 等	①ICG業務での確認内容の追加 ②IDA業務での誤入力ガード ③他法令コード入力漏れアラート機能 ④⑤少額・大額 アラート機能	①多い。担当者によっては毎日使用 ②少ない。 ③80件/月 ④⑤少額申告は10件程度(月) 大額申告で欄部少額 E 使用は30件/月	①MSX業務をした際に、ICGで履歴を確認出来ない。(送信画面でCOMPLETION表示がされるのみ) ②IDA業務で、建値FOBの場合でも運賃加算Eで入力出来てしまう。 ③他法令がある場合、承認番号等に記載していても関税法70条関係許可承認がブランクでも許可になってしまう。承認番号等に入力有の場合関税法70条ブランクであればアラート機能で④輸出の少額申告 大額ですすめてもエラーにならない ⑤欄毎の大額・少額 少額を示すEを入力しなくてもエラーにならない。	①ICG業務で、MSX業務やMSY業務の履歴を確認出来る様にして欲しい。 ②IDA業務で、建値CIFの際に運賃加算Aがエラーではじかれる様に、FOBの場合のEもはじいて欲しい。 ③承認番号等に入力有の場合関税法70条ブランクであればアラート機能で警告してほしい。 ④⑤金額で識別・アラート機能で警告してほしい。	① MSX業務の事後確認が出来、税関側への書類送信確認の手間が減る。 ②③④⑤全国の申告非違率の低下が期待できる。
H31-164	海上入出港	乗員上陸許可申請	VPX	VPX(乗員上陸許可申請)日本人乗組員情報除外対応	約1~2回/月	現状日本人乗組員が混ざっている船舶の場合、上記の申請を行う際にVTX02(乗組員情報登録)に遡って日本人乗組員を削除してから、VPX(乗員上陸許可申請)を行っており、申請後に再度VTX02で日本人乗組員を含めた全乗組員の情報に変更するという非常に手間のかかる作業をしている。	入管側のシステムで日本人乗組員を除外してショアパス(乗員上陸許可書)を発送できるようにするか、VPX(乗員上陸許可申請)から入管側に情報を送信する際に、日本人乗組員の情報は弾いて送信するようにプログラムを変更してもらいたい。	都度乗組員情報を変更するという手間のかかる作業が無くなり、業務効率が上がる。また変更時の操作ミスも防止でき、確実な入管申請が可能となる。
H31-165	海上入出港	出港届	VOX	VOX(出港届)税関送信前確認画面追加	約80回/月	税関に対して、外航船舶のクリアランス(出港許可書)をVOXで発行申請をする際に、発行されるクリアランスの内容が確認できない。(VOX送信後のクリアランスを確認するしかない) 次港変更や乗員交代等で、VTX01やVTX02の変更を忘れていた場合、間違った情報でクリアランスが発行される。(一度発行されたクリアランスは変更できない)	VOXでクリアランス発行申請を送信する際、TPC(とん税等納付申告)のように送信前に、発行されるクリアランスの内容が確認できる画面を追加してほしい。	発行されるクリアランスの内容を確認できる画面を追加することで、内容に不備があった場合にVTX01やVTX02に立ち戻って情報を変更して、正しいクリアランスを発行することができる。
H31-166	海上入出港	出港届	VOX	VOX(出港届)クリアランス税関許可印追加	約80回/月	NACCSで発行したクリアランス(出港許可書)は税関印の無いシンプルな内容のため、外地仕向国の港によっては、当局から税関印が無いことに対して説明を求められるケースがまれにある。(インドネシアなど)そのため、一部仕向国のクリアランスに関しては、税関まで赴き税関印を押印してもらっている。	NACCSで発行されるクリアランスに税関印が入るようにしてもらいたい。(韓国のクリアランスがその様式で発行されている)	クリアランスに税関印が入ることで公式な文書であることがよくわかり、外地仕向国に船舶が入港する際のトラブルを未然に防ぐことができる。

No.	業務区分	業務内容	業務コード	変更等事項	使用頻度	現行内容	変更等要望内容	効果
H31-167	海上入出港	入港前統一申請	WPT	(WPT) 入港前統一申請 (運航情報不使用)	多い	アップロードした船員情報を読み込む作業の際、その読み込んだ情報内容(中身)を画面にて確認出来ない為、読み込みすべきファイルの選択を間違える可能性がある。 実際弊所にてこの事象が発生したが、大事に至る前に変更処理を行う事ができた為事なきを得た。 本事象はシステム不具合ではありませんが、一歩間違えば法令違反にも繋がりが兼ねない事象である為改善が必要と考えます。	アップロードファイル名に対象船名を追記するなどの対策を講じているが、当該作業中に読み込んだファイル内容の確認、更にはその編集まで出来る様にして頂きたい。	
H31-168	海上入出港	入港前統一申請	WPT	入港前統一申請 (WPT) ・同時に送信するとエラーになる。 乗員上陸申請 (入管宛て) は代理店電話番号が必須。 船舶保安情報 (港長宛て) は代理店電話番号任意。 ただし、代理店電話番号を入力すると住所が必須となる。 上記申請を同時におこなうと、代理店電話番号が連動しているため、港長宛ての申請で住所を入力する必要が出てくる。 ・同時に送信するとエラーになる。 乗組員・旅客情報事前報告情報 (税関宛て) は代理店コードが必須。 係留施設使用届 (港長宛て) は代理店コード任意。 ただし、代理店コードを入力すると電話番号、住所が必須となる。 上記税関宛てと港長宛てに同時申請する場合、代理店コードが連動しているため、港長宛てに送る際に電話番号、住所を入れなければ同時に送ることが出来ない。	毎回	入港前統一申請 (WPT) ・同時に送信するとエラーになる。 乗員上陸申請 (入管宛て) は代理店電話番号が必須。 船舶保安情報 (港長宛て) は代理店電話番号任意。 ただし、代理店電話番号を入力すると住所が必須となる。 上記申請を同時におこなうと、代理店電話番号が連動しているため、港長宛ての申請で住所を入力する必要が出てくる。 ・同時に送信するとエラーになる。 乗組員・旅客情報事前報告情報 (税関宛て) は代理店コードが必須。 係留施設使用届 (港長宛て) は代理店コード任意。 ただし、代理店コードを入力すると電話番号、住所が必須となる。 上記税関宛てと港長宛てに同時申請する場合、代理店コードが連動しているため、港長宛てに送る際に電話番号、住所を入れなければ同時に送ることが出来ない。	同時に送る場合、必須項目でない箇所まで入力しないと同時に送ることが出来なくなるため、そういった状態がおこらないようにしてほしい。 WPTに限らず、訂正等で呼び出した情報を一箇所だけに送りたい場合でも、ほかの官庁あてのページも修正しないとエラーが出ることもあり、非常に不便である。第5次NACCSの時と同じ仕様であり、改善を要望します	エラーチェックの時間、無駄な項目の入力を省くことが出来、業務が効率出来る。

No.	業務区分	業務内容	業務コード	変更等事項	使用頻度	現行内容	変更等要望内容	効果
H31-169	海上入出港	入国管理局宛の入港通報	WPT / WOT	CSVファイルのCREW LIST における身分証明書有効期限に関して (WPT / WOT)	毎回	WPT (入国管理局宛の入港通報) 業務において、乗組員情報・身分証明書有効期限は必須項目になっていない。その為、WPT申請時に身分証明書有効期限の入力は必要ないが、WOT (入国管理局宛) 業務は入力が必要となっている。その為、WPT業務で使用したCSVファイルをそのまま利用出来ず、WOT業務用に身分証明書有効期限を入力したCSVファイルを新たに作成する必要がある。代理店の理解では身分証明書有効期限が必要なのはWPT業務で入国管理局宛の乗員上陸許可申請を行う場合のみ。	WOT業務の乗組員情報・身分証明書有効期限を必須項目からはずしてほしい (5次NACCSでは必須項目ではなかった)。平成30年度のプログラム改善要望 (No. H30-074) で「身分証明書有効期限が未入力でも送信可能にして頂きたい」という変更要望に対して「対応済み」との回答であったが、実際は有効期限がない身分証明書に関して対応されているだけであり、有効期限がある身分証明書に関しては有効期限を入力しないとエラーが発生する。	乗組員情報に変更が無い場合、WPTで使用した乗組員情報をそのまま利用することが可能となり、不必要な業務の削減になる。
H31-170	海上入出港		WOT	WEB NACCS “WOT業務“出港届等登録”の機能改善について	4回/月程度	“WOT業務”の“出港届等登録”にて本船の出港予定時間を入力し出港許可書を発行後、実際の本船出港時間への訂正は“WOT”業務の“訂正・取消”にて実施しなければならないが、“出港届等登録”画面でも訂正を行ってしまう仕様となっているため、誤って操作を行った場合、出港許可書が二重発行されてしまう恐れがある。	現行仕様では、出港許可書発行後でも“WOT”業務の“出港届等登録”画面から入力可能な仕様となっており、同一本船で出港許可書が重複して発行されてしまう可能性があるため、出港許可書が二重に発行されない仕様としていただきたい。	出港許可書の重複発行リスクの排除
H31-171	海上入出港		VBX IVK	VBX IVKの表示項目の追加	程毎日	IVKで船舶コードを調べる際、運航船社しか判らない。輸出通関等は本船の入港より大きく先行して進められる事が多く、間違った船舶コードを使用して処理を進めて事後に訂正を行う事がまあり、確認・指摘の手間と訂正の手間を取らされる。	備船契約の関係で運航船社が変わる場合だけでなく、同じ運航会社でも事情により切り替えるケースもあるが、この場合複数表示されるうちどちらが新しい方かすら判らない。登録日時を表示させるだけでも、その日時が直近であれば正しいものとして通関を進める事が出来、誤って古いコールサインを使用して通関を進めてしまうケースが減る。更に記事欄を追加して、船会社側で追記事項を入力し案内と出来れば尚良い。	許可・申告内容の訂正が必要になるケースが減る。
H31-172	海上入出港	乗組員情報登録	VTX02	登録人数の増加	年に数回 (今後増加傾向)	現行NACCSのVTX02では乗組員情報の登録可能人数が1,500名。近年日本に寄港する客船が大型化しつつあることから乗組員が1,500名を超える場合があり、システムでまかなえないためマニュアル対応を行っている。	VTX03のようにページを分ける形でも良いので登録可能人数を増加して頂きたい。	東京オリンピック開催時は大型客船の寄港が増加する可能性が高く、上陸許可証の作成等がマニュアルでは対応しきれなくなる。システム対応が可能になることにより申請者だけでなく官庁側もかなりの手間が削減できる。
H31-173	海上入出港	入港届	VIX WIT	入港届の回答への記載事項追加	約60回/月	入港届提出後、税関からの回答に「入港日時」の記載が無い。	入港届提出後の税関からの回答に「入港日時」を記載して欲しい。	トン税の支払い時に入港日時を間違えて送信していないかどうかの確認が容易に出来る。現状は他官庁からの回答やIVS、WWSにて確認している。

No.	業務区分	業務内容	業務コード	変更等事項	使用頻度	現行内容	変更等要望内容	効果
H31-174	海上入出港	入出港業務全般	WPX等	添付ファイル	約30回/月	申請書に添付書類がある場合、税関、港湾管理者にはファイルを別途送付する業務があるが他の省庁にはFAXや手交する必要がある。	税関、港湾管理者以外にもシステムからファイルを送付する（申請に添付する）ことが可能にしていきたい。	FAXする場合にどの申請の添付書類かが分かるようにする必要が有るがこれが不要になり又手交する場合は官庁に向く必要がなくなるためかなりの業務省力化が見込める。
H31-175	海上入出港	netNACCS 事前情報登録	VTX	VTX（事前情報登録） 最終更新日時を表示追加	本船入出港時毎	データを送信後、他の者が訂正したか分からない。	データ送信、訂正をしたログが分かるようにして欲しい。	複数の代理店で同じVTX（事前登録情報）を共有している際、VPX（入港前統一申請）やVIX（入港届）、VOX（出港届）送信前にVTXデータ更新の有無をチェックする時間が省ける。
H31-176	海上入出港	WEBNACCS 停泊許可申請 危険物申請	WEBNACCS WPT	停泊場所指定願・危険物荷役申請を1つの入力画面でまとめて申請出来るようにしてほしい	申請毎	申請毎にサブメニューリンクを開き、申請毎にデータを入力しなければならぬ	各々の申請サブメニュー毎にデータを入力する方式から、1つのデータ入力画面に必要な事項を入力し、必要な申請はチェックリストなどで選択し、まとめて送信できるようにしてほしい。	データ入力の時間短縮・効率化
H31-177	海上入出港	WEBNACCS 帳票確認	WEBNACCS WNC	帳票の保存期間の延長	帳票確認毎	帳票の保存期間が登録された日から7日	帳票の保存期間の延長。 または、帳票の確認をしていないものは削除されないようにして欲しい。	帳票確認漏れ・印刷漏れデータの消失が無くなる。
H31-178	海上入出港	netNACCS 入港前統一申請 （係留許可申請）	VPX	VPX（係留施設使用許可申請）申請者名	申請毎	VPXはNACCSに参加している船会社と船舶代理店課が入力・送信出来る。VPX送信者が自動的に係留施設使用許可申請の申請者欄に表示される。	VPX（係留施設使用許可申請）の申請者に表示される申請者情報を入力出来るようにして欲しい。	申請名がNACCS不参加の船会社名でも申請が出来るようになる。
H31-179	海上入出港	netNACCS 船舶運航情報登録 呼出し	VTX11	データ呼び出せる期間の延長	本船入出港毎	一定期間経過するとデータが削除されてしまう。	VTX11業務でデータ呼び出せる期間を延長して欲しい。	以前、本船が日本に寄港した際のデータを利用することで、本船情報・外国地寄港情報などの入力の手間が省ける。
H31-180	航空入出港	検疫前通報	GIA01	検疫前通報が「上陸旅客数」「乗継旅客数」の欄の並びになっているので、出港届を「出発空港搭乗旅客数」「出発空港通過旅客数」の並びに変更して頂きたい	1日120回使用	出港届が「出発空港通過旅客数」「出発空港搭乗旅客数」の順で並んでいる。	簡単に申し上げると、「乗継旅客数」の欄がフォーマットの位置が検疫前通報と出港届で逆になっているため、入力逆に入力する間違いが多発している。	「乗継旅客数」と「上陸旅客数」、出発空港通過旅客数と「出発空港搭乗旅客数」のテレコでの入力ミスが無くなる。

No.	業務区分	業務内容	業務コード	変更等事項	使用頻度	現行内容	変更等要望内容	効果
H31-181	損保	包括保険仮登録	HHA, HHC	包括保険仮事項登録を包括保険確認登録と同じ業務にする。	多	輸入者と損害保険会社間で包括保険契約締結後、輸入者は損害保険会社に「包括保険申請書」等を発行。損害保険会社は「包括保険仮事項登録」及び「包括保険仮登録」を実施。仮登録後、輸入者になんらかの方法にて仮登録した旨を連絡。輸入者は連絡を受けた後、「包括保険確認登録呼び出し」を行い内容を確認後、包括保険確認登録を実施する。	損害保険会社が仮登録した内容については、メール等NACCS以外の方法にて輸入者に通知。輸入者が確認の上、再度メール等で通関業者等に依頼し本登録することになっており、この為、業務上の連携が失われている(タイムラグや誤送信のリスクあり)。包括保険内容をNACCSに登録すること自体は法的に縛られた行為ではなく、損害保険会社が間違ったインプットをすることも容易には想定出来ないので、損害保険会社が締結された包括保険契約内容を入力したものを本登録とし、本登録完了と同時に輸入者に通知される仕組みに改修する事で、前述リスクや非効率を排除するもの。輸入者宛通知は、添付ファイル付きメールの自動送信により行い、輸入者は包括保険の内容を添付ファイルを開くことによって確認出来るようにする。当然ながら、登録内容が間違っている場合には、保険会社だけで修正が出来るようにしておく。	仮登録・本登録の間でタイムロスがなくなり、業務の効率化が図れる。
H31-182	損保	包括保険仮登録	HHA, HHC	自動配信メールの題名変更	毎月複数件	仮登録完了・登録完了時に自動配信されるメール(PDFにて情報報が添付されているもの)の題名が、【包括保険仮登録通知(新規)】H123456_1AXXXとなっており、題名でどの輸入者様の包括保険かの判断がつかない。	メールの題名に、輸入者様の“輸入者コード”もしくは“輸入者名”を追加していただきたい。	保険会社内での運用・管理の効率化を図るため。
H31-183	損保	包括保険仮登録	HHA, HHC	満期通知メールの配信	毎月複数件	“適用終了年月日”を設定している場合、輸入申告事項登録業務(IDA)実施日が、“適用終了年月日”の2週間前を過ぎている場合には、輸入申告事項登録業務を実施後に、実施者宛てに注意喚起メッセージが出力される。実施者以外は“適用終了年月日”が近づいている事実を把握することができない。	“適用終了年月日”の一ヶ月前となった時点で、保険会社に対しては登録済アドレス宛てに自動配信メールにて通知され、該当の輸入者様に対してもメール等で“適用終了年月日”が近づいている事が通知されるよう、機能を追加いただきたい。	輸入者様側および保険会社における適正な管理および効率化のため。
H31-184	損保	包括保険使用実績データ		包括保険使用実績データのダウンロード配信周期の変更	お客様毎に月に1回	包括保険使用実績データのダウンロード配信周期について、毎月1日、11日、21日となっている。	締日単位で保険会社へ報告する事を考慮して10日分ずつダウンロードする仕様となっているが、一ヶ月分(3回分)をまとめて(あるいは期日を指定して)ダウンロードする事も可能とする仕様に変更いただきたい。	輸入者様からのお声もあり、包括保険使用実績データの利用者増加につながる。
H31-185	損保	包括保険申請	HHAOW	訂正登録通知メール	月に1件	訂正登録通知メールを受信するが、メール本文や添付文書からすぐに訂正箇所が判別出来ない。	訂正箇所がわかるようにしていただきたい。	訂正箇所確認時間の短縮
H31-186	損保	包括保険申請	HHAOW	メールアドレスの一括変換機能	年に1回 ※処理件数は数百件	組織変更及び移管の際にメールアドレスの変更が必要となるが、現行は1社ずつ仮登録呼出画面からのメールアドレスの変更が必要。	使用するメールアドレスを一括で変更できるシステムとしていただきたい。	組織変更の場合は大量の処理となるため、1社ずつの対応は漏れる可能性がある。一括変更が可能となれば効率的且つ漏れない運用とすることが出来る。

No.	業務区分	業務内容	業務コード	変更等事項	使用頻度	現行内容	変更等要望内容	効果
H31-187	損保	包括保険仮事項登録	HHA	保険料指数自動計算有無のチェック欄の追加、および料率、BONUS、UP率の入力チェックの条件変更	数ヶ月に1件	保険料指数を自動で算出せず、保険料指数を手入力する場合はUP率、料率(MARIN、WAR)、BONUS割合(MARINE、WAR)欄に入力があればエラー 輸出入者からの料率(MARIN、WAR)、BONUS割合(MARINE、WAR)の記載要望があるため、現行ではコメント欄に記載している。	保険指数の自動計算有無のチェック欄の追加 保険料指数を自動計算しない場合はUP率、料率(MARIN、WAR)、BONUS割合(MARINE、WAR)、およびUP率の欄を入力可能にしていきたい。	包括保険本登録情報控の体裁が良くなり、不満等の問い合わせの減少が見込まれる
H31-188	損保	包括保険申請	HHAOW	エラーメッセージの表示	月十数件	文字制限の桁数がわからない(主にGOODS欄)。	文字制限の桁数を画面に表示するか、または登録エラー時にメッセージ表示していただきたい。	あらかじめエラーにならない様に入力する等により登録時間の圧縮につながる
H31-189	損保	包括保険申請	HHAOW	適用開始年月日	月に1件	輸入者が本登録後、適用開始年月を修正しようとしても現行は不可であり、仮登録からやり直しをする必要がある。	本登録後にも適用開始年月を入力者側で修正ができるよう改定をしていただきたい。	申請作業の効率化が図れる。
H31-190	損保	包括保険申請	HHAOW	輸入者の操作説明書の開示	月に1件	輸入者の操作説明書が閲覧できず、訂正登録可能項目がわからない。	訂正登録可能項目を教えていただきたい。	お客さま対応上把握しておくべき内容であるため。
H31-191	損保	包括保険使用実績データ		インボイス番号のカンマ区切り対応	お客様毎に月に1回	包括保険使用実績データの「インボイス番号」につき、お客様側でインボイス番号をカンマで区切って入力するケースがあり、その場合、CSVファイルレイアウトが崩れるため、システムへの取込等に不具合が生じる。	「インボイス番号」の項目を、ダブルクォテーション付加項目としてほしい。	「インボイス番号」内でカンマが入力されていてもCSVファイルレイアウトが崩れず、正しい項目値の把握が可能となるため、システムへの取込時に都度人手でのレイアウト修正が不要となる。
H31-192	その他	汎用申請	HYS	HYS 汎用申請	毎回	HYS 汎用申請はパッケージソフトでしか出来ない。	HYS 汎用申請をWEB NACCS でも行えるようにしてほしい。 運航情報を使用せずに入出港業務を行う場合はWEB NACCS でしか申請が行えません。しかし、HYS汎用申請はパッケージソフトでしか利用出来ない為、WEB NACCS 上ですべての業務を行うこと出来ず、WEB NACCS とパッケージソフトを使い分ける必要があり、非常に手間である。また、HYS汎用申請の為にパッケージソフトを導入する必要がある。	WEB NACCS でも汎用申請が行えるようになれば、WEB NACCS 又はパッケージソフトのどちらか一方を導入するだけで必要な業務を行う事が出来るようになり、社内での管理も容易になる。
H31-193	その他	機用品管理資料(T50)について	T50 INVENTORY CONTROL LIST180400	機用品管理資料(T50)について、在庫数量"0"(ゼロ)となった品名コードが削除されない		管理資料T50「INVENTORY CONTROL LIST」について、在庫数"0"となった品名コードがゼロ実績としてずっと管理資料に収集されてしまう。	ゼロ実績を削除する方法はないか。また、T50にゼロ実績が収集されないようにするための業務等あれば教えてほしい。	

No.	業務区分	業務内容	業務コード	変更等事項	使用頻度	現行内容	変更等要望内容	効果
H31-194	その他		全角文字が入力できる業務コード全般	全角文字が入力できる業務コード全般	検査指定情報の受信頻度は毎営業日。 内、文字化けによる平均エラー発生件数 ⇒約5件/月 (第六次NACCS更改後2017/10~2018/5の8ヶ月平均)	税関より検査指定情報の電文を受信する際に、電文内容に禁止文字が含まれていることがしばしばある。その結果、禁止文字は受信時に文字化けが起こり、自社システムにおいて検査指定情報を帳票化する際に帳票作成エラーが生じる。とりわけ発生頻度が高いのは検査指定情報だが、他の電文においても禁止文字を含む場合には、同様に帳票作成時にエラーが発生する。 下記の一文は帳票作成エラー時の検査指定情報より抜粋。「?」部分の二箇所文字化けが発生している。	検査指定情報を始めとする禁止文字を含む税関入力電文が送信された際に、NACCSセンターのシステム上で禁止文字の存在チェックを行う。電文内に禁止文字が存在した際には税関側にエラーを通知し、文字化けを含む電文の送信をNACCSセンター側で中断する。	禁止文字を含む電文の受信エラー発生後に対応するリカバリ処理がなくなり、業務の効率化が図れる。
H31-195	その他	共通通関		共通通関	毎日	「外部ファイルを開く」から外部ファイルの読出しを行った場合、現システムはカレントディレクトリが選択されず、NACCS指定保存先のディレクトリが指定されてしまうため、データ呼出したフォルダへ再度保存しておきたいときに、NACCS指定保存先フォルダが選択されるため不便である。	外部ファイルの読出しを行った場合、読出し先のフォルダを記憶し、保存時に保存先として表示されるように変更してほしい。	・事務処理の軽減 ・次の申告等へのスムーズな処理対応が出来る
H31-196	その他	net-NACCSデジタル証明書期限の把握			1回/年	net-NACCSデジタル証明書の期限切れ、再発行が発生してしまう。	デジタル証明書の期限確認は、各端末で管理する為、担当者任せになってしまう。システム管理者が、デジタル証明書の有効期限または、発行年月日を管理出来るようにしてほしい。(システム管理者が全端末のデジタル証明書を管理できるようにしてほしい。) 具体案としては、NSSで一元管理する方法、アラート、システム管理者へのメール通知。	デジタル証明書有効期限切れについて、システム管理者による一元管理。再発行業務の低減(利用者、NACCSセンター)
H31-197	その他			サーバー管理アプリ		クライアントソフトの電文出力設定画面が現在は参照ボタンからWindows Networkで対象のサーバーを選択する仕様になっているが、Networkサーバーの一覧表示には上限があるため、必要なサーバーが表示されない。	ファイルを開く画面を表示する仕様に変更し、絶対パスでも指定できるようにしていただきたい。	現在はXMLファイルを直接変更で対応しているが、画面からの操作だけで設定が可能となり効率化となる。(このXMLファイルの直接変更による対応は本来の対応方法ではないと考えます。)
H31-198	その他	出港届等	VOX等	回答電文のpdf形式での出力	平均で5回/日程度	本船等からpdf形式でメール添付で送って欲しいと要望があった場合、一旦印刷したものをスキャナーを通してpdf形式で保存したものを添付している。	一旦紙に印刷するのでは無く、EXGEL、WORDのようにダイレクトでpdf形式に保存することが出来ないか? もし既に可能なら手順をご教示頂きたい。	印刷費用及び手間が削減できる。
H31-199	その他	netNACCS入港前統一申請	VPX等	業務入力時、業務固有情報欄で右クリックを出来るようにする	業務データ入力訂正毎	業務固有情報欄で右クリックが出来ない。	業務固有情報欄で右クリックが出来るようにしてほしい。	データの訂正を送信する際に、申請番号の入力ミスを防ぐことが出来る。